

Vol.

//

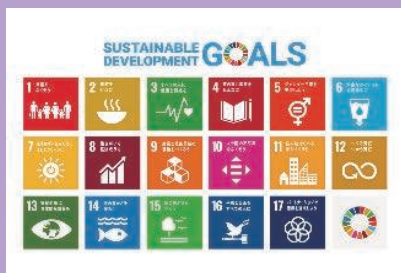


子どもが創る 多摩市の未来

Education for Sustainable Development 実践事例集



Toward the future, 2050



令和8年3月
多摩市教育委員会
多摩市子ども青少年部

実践事例集 目次

Contents

はじめに…………… 2

2050年の大人づくりに向けて

多摩市教育委員会

教育長 千葉 正法



多摩市の進めるESD…………… 3

令和7年度 ESD 推進校の実践…………… 5

○和田中学校区……………5	○多摩永山中学校区……………15	○落合中学校区……………27
□ESD 推進校の取組概要	□ESD 推進校の取組概要	□ESD 推進校の取組概要
□ESD 推進校の実践	□ESD 推進校の実践	□ESD 推進校の実践
和田中学校・多摩第二小学校	多摩永山中学校・永山小学校・瓜生小学校	落合中学校・西落合小学校・東落合小学校
□ESD 推進校の成果と課題	□ESD 推進校の成果と課題	□ESD 推進校の成果と課題

令和7年度 多摩市立小・中学校の実践……………38

○多摩第一小学校……………38	○聖ヶ丘小学校……………44	○多摩中学校……………50
○多摩第三小学校……………39	○大松台小学校……………45	○東愛宕中学校……………51
○連光寺小学校……………40	○諏訪小学校……………46	○諏訪中学校……………52
○北諏訪小学校……………41	○貝取小学校……………47	○聖ヶ丘中学校……………53
○東寺方小学校……………42	○豊ヶ丘小学校……………48	○鶴牧中学校……………54
○南鶴牧小学校……………43	○愛和小学校……………49	○青陵中学校……………55

「多摩市子どもみらい会議」のメッセージを踏まえた取組……………56

多摩市ESDコンソーシアム連絡会 2025(報告)……………61

令和7年度 多摩市子どもみらい会議(報告)……………62



2050年の大人づくりに向けて



多摩市教育委員会
教育長 千葉 正法



多摩市教育委員会では、平成21年度から「持続可能な社会の創り手」として必要となる資質・能力の育成に向けて、ESDを重点施策に位置付け、取り組んできました。この間、各学校では、各中学校区でESDを通して育成する資質・能力を設定するとともに、総合的な学習の時間を中心に継続的に内容の見直しと改善を図り、地域の人々等と連携・協働しながら、ESDの充実と発展を目指してきました。

今では、ESDは各学校の特色ある教育の一つとして展開されており、「身近なことから課題を見付け、課題解決のための方策を考え実行し、みんなで取り組んだことを発信する」という探究学習のサイクルの中で、子どもたちは、主体性を発揮し、試行錯誤をしながら持続可能な社会に必要な資質・能力を身に付けてきています。

さて、今年の「多摩市子どもみらい会議」は、日本のユネスコ事業75周年の記念事業として実施し、参加した市内小・中学校8校がESDの取組を通して気付いた課題を基に協議を行い、多摩市への提言を行いました。その際、多くの市役所の職員にも協議に参加してもらい、課題解決に向けた情報を提供してもらったり、質問をしたりしながら、意見を出し合いました。このような様子を見て、講師としてお招きしたアナウンサーであり気象予報士・防災士の資格をお持ちの大河内 孝子氏から、子どもたちに向け、みらい会議を含むESDの取組について価値付けていただきました。ESDを通じた探究学習という共通体験から対話を重ね、市政への提言という一つの合意にたどりつくために、子どもたちは活発に意見を出し合いました。今回、話し合ったことを行動に移し、みらい会議だけでなく、日頃から「自分たちにできることは何か」と考え、実際にやってみることが大切であることを改めて認識するよい機会となったことと思います。

本事例集には、各学校の特色あるESDの取組が掲載されています。他校の取組を知ることで、「自分の学校ではどんなことができるだろうか」「自分たちの住む地域に合わせて取組を変えてみよう」と参考にすることができ、より行動に移しやすくなるのではないのでしょうか。人口減少や地球温暖化をはじめ私たち大人にとっても、これからの社会のことを考え、つながり、関わりながら子どもたちを支援していくための指針となるでしょう。一人では解決できない課題も力を合わせて知恵を集め、解決に結び付けることが重要です。

結びになりますが、多摩市立学校のESDの推進のためにご協力いただいた関係機関の皆様、ESDコンソーシアムにご参会、ご賛同いただいた地域、企業、大学等の皆様、学校の教育活動を日頃から支えていただいている保護者、地域の皆様、子どもたちを導いてくださっている校長先生をはじめ教職員の皆様に感謝を申し上げ、あいさついたします。



ESDの推進

持続可能な開発のための教育



Education for Sustainable Development

多摩市の進める



多摩市ユネスコスクール
イメージキャラクター「ゴーヤン」

ESDとは、「持続可能な社会の創り手」を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動する力を身に付ける学習や活動のことです。

平成 21 年(2009 年)から「2050 年の大人づくり」をスローガンに、ESDを推進しています。これまでに、多摩市全公立学校が「ユネスコスクール」として、環境教育をはじめとした様々な視点から、ESDの推進拠点として特色のある活動を展開してきました。

次の10年を見据えたスローガン

「2050年の大人づくり」に向けたセカンドステージへ

セカンドステージの3つの方策

方策① 小中連携したESDの推進	方策② SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指したESDの推進	方策③ 「多摩市子どもみらい会議」の充実
<p>子どもたちの実態を踏まえ、各中学校区においてESDを通じて育成する資質・能力を設定し、小学校の学びを中学校へつなげていきます。 ※中学校区…1 中学校2小学校を基本として構成される区分。多摩市は 9 中学校区に分かれる。</p>  <p>▲小中 9 年間を通じたESDでの連携イメージ</p>	<p>2030 年までに持続可能なよりよい社会を目指す国際目標SDGs (Sustainable Development Goals)の達成を目指した教育活動やESDの視点を明らかにした教科等横断的な学習を推進します。</p>  <p>▲SDGs(持続可能な開発目標)</p>	<p>平成 27 年(2015 年)から開催してきた子どもたちによるESDの実践の場である「多摩市子どもみらい会議」において、参加した子どもも大人もみんなで、その実践の在り方を共有し、ESDの学びを実生活や社会の変容へつなげていきます。</p>  <p>▲「多摩市子どもみらい会議」の様子</p>



市民の皆さんへ

教育委員会では、多摩市のESDの取り組みや各学校の取り組みを、市民の皆さんへお知らせしていきます。



▲ESD啓発チラシ



▲ESD実践事例集「子どもが創る 多摩市のみらい」



令和7年度

多摩市子どもみらい会議

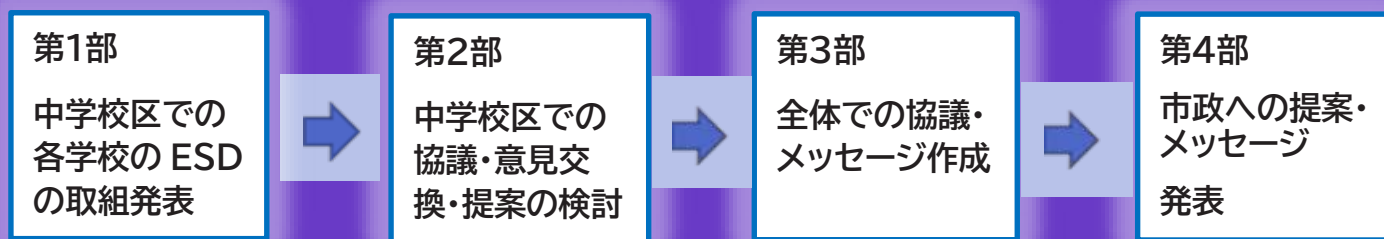
2050年の多摩市のために私たちにできること
～SDGsの達成に向けて何をすべきか～

令和8年1月30日(金) 午後1時30分から午後4時30分まで

多摩市立多摩永山中学校 体育館

多摩市教育委員会では平成21年度から「2050年の大人づくり」をスローガンにESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、平成27年度からは子どもたちのESDの取組の成果発表と市政や市民へのメッセージを考え発表する「多摩市子どもみらい会議」を開催しています。

今年度も、「2050年の多摩市のために私たちにできること～SDGsの達成に向けて何をすべきか～」をテーマに、参加する子どもたちがESDの取組から学んだことを基にして、持続可能なまちづくりに向けた提案とメッセージの発信を行います。



参加校(令和7年度ESD推進校)

【和田中学校区】和田中学校・多摩第二小学校

【多摩永山中学校区】多摩永山中学校・永山小学校・瓜生小学校

【落合中学校区】落合中学校・西落合小学校・東落合小学校

・協議には、各学校のESDの取組に関連のある多摩市役所の職員も参加します。

・第4部終了後に、講師の先生から、子どもたちの取組について講評をいただきます。

講師: 気象予報士 防災士 大河内 孝子 氏



(昨年度の多摩市子どもみらい会議の様子)

【問い合わせ】

多摩市教育委員会 教育指導課

☎ 042-338-6913

令和7年度 ESD 推進校 実践のまとめ



和田中学校



多摩第二小学校



和田中学校区





【目次】

令和7年度 和田中学校区 取組概要.....7

【各校の実践】

□多摩市立和田中学校.....8

「循環型社会を目指して」

～CURE 雑巾プロジェクトを通し、

資源を循環させることの必要性を考える～



□多摩市立多摩第二小学校.....10

「地震から身を守ろう」



□成果と課題.....12

令和7年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

自分にとって身近な領域から課題を見付け、その課題と自分との関わりを考察しつつ、探究を重ねる中で「持続可能な社会の実現」を心から願って行動できる児童・生徒の育成を図る。自らの暮らしや地域の課題を結び付けて考えることで、他者と協力・協働して解決しようとする自主的、実践的な態度を養い、地域社会に積極的に関わろうとする意識を醸成させる。

2 取組設定の理由

「持続可能な社会の実現」に向けて、まず持続可能な社会についての知識・理解を深めるべきである。しかし、突然「社会」との関わりを意識させようとしてもうまくはいかない。そこで、児童・生徒にとっての身近な「社会」である「地域」をテーマとした。地域と自分との関わりにより、他人事ではなく自分事として「持続可能な社会」について考えを深めることができると考えた。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し活用する能力
- 【意思・態度】多様性を尊重し共生する態度（違いを受け入れる意思）
- 【探究する力】地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）
- 【思考力】内省的な思考力（考えを深める力）

4 実践のポイント

【多摩第二小学校】

多摩第二小学校では、街や多摩市など身の回りから課題を見付け、自分との関わりで捉えて探究し、持続可能な社会の実現を心から願って行動できる児童を育成することを目標に学習を行ってきた。低・中学年では、町探検やお店訪問、市内巡りを通して身近な環境や社会に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む態度を養ってきた。見付けた課題について調査し、多面的に見つめ、結果をまとめる力を高学年までに身に付けられるよう活動をしてきた。高学年では、災害や再生可能エネルギーなどの学習を通して、調査で取得した情報を活用し、問題解決のために「わたしたちに何ができるか」を考え、思いを発信する力を培ってきた。

【和田中学校】

和田中学校では、小学校での取組を受け、「知識の獲得」「多角的視野の獲得」「社会参画能力の向上」「論理的思考力の向上」という4観点に重点をおいて取り組んだ。第1学年、第2学年、第3学年と段階に応じて「地域」「日本」「世界」との関わりを意識させ、目まぐるしく変化する環境の中で対応する力を養い、知識を得ることで確固たる考えを構築、それらの意見を共有することにより様々な視点から物事を考える意義を学び、どのようにすれば自分の力を地域・日本・世界に生かしていけるのかを考え、積極的に社会参画する姿勢を養わせる取組を行った。

多摩市立和田中学校

1 単元名(教科・領域)・学年

「CURE 雑巾プロジェクト」

(総合的な学習の時間・国語・家庭科)・第2学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 循環型社会の仕組みを学び、実践する力
- 自主的に活動に取り組む態度

3 単元の目標

- (1) 廃棄物を生み出さない考えについて理解を深める。
- (2) 循環型社会の必要性について理解し、自分にできることを考える。
- (3) 廃棄物になるはずのものを有効活用することで得られる利益について理解し、今後に生かそうとする意識を根付かせる。

4 単元計画の概要【全7時間】

- (1) 掃除で使った雑巾を畑に散布し、ジャガイモを植える。



- (2) 雑巾を使って土壌回復した畑でジャガイモ収穫する。



- (3) 収穫したジャガイモを家庭科の時間で調理し、味わう。



- (4) 循環型社会とは何か、どうあるべきかを考え、プレゼンテーションにまとめ、発表する。



5 授業の紹介【第6～7時】

(1) 本時の目標

- ア 「循環型社会」について自分なりの意識や考えをもつ。
- イ 他者の意見を聞き、自分の意見に取り入れ考えを深める。

(2) 授業の展開

導入

これまでの学習を振り返り、「循環型社会」を捉える。

1

展開①

循環型社会の必要性及びメリットを調査し、ロイロノートでまとめる。

2

展開②

まとめた内容を基に、「循環型社会」に利用できる方策をプレゼンテーションにまとめる。

3

展開③

作成したプレゼンテーションを班及びクラス全体で発表する。

4

まとめ

発表を聴き、班で話し合い、「循環型社会を目指して」のスローガンについて考える。

5



1



2・3



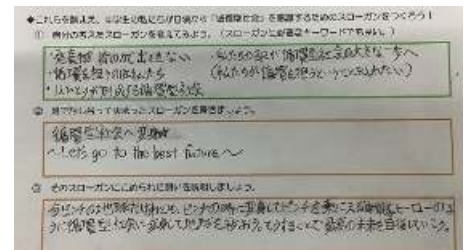
4



4



5



5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・循環型社会についての理解が深まった。3Rを基本とした取組についての発表が多く、勉強になった。
- ・自分たちにできることをやってみようと思った。
- ・「社会」を変えていくために自分たちができることなんてあまりないと思っていたけれど、調べてみたらイベントに参加したり地元の食材を買ったりするなど、簡単にできることがあって驚いた。学習を通して、私たち個人であってもできることはたくさんあるのだということを知ることができたので積極的に調べて、取り組みたいと思った。
- ・身近でできることを自分たちが少しずつしていけばちょっとは未来の世界が良くなるのかなと思った。

(1) 成果

- ・本単元で扱った「循環型社会」については、昨年度から引き続き2か年計画で行なわれたものであった。当初は「循環型社会」について疑問を多く抱いていた生徒たちであったが、単元後は自ら循環の在り方について考えが深まった。

(2) 課題

- ・本取組について、他学年や地域に向けて効果的な発信をし、よりESDの推進をしていくことが課題である。

1 単元名(教科・領域)・学年

「地震から身を守ろう」

(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する力
- 課題を見付け、行動する力
- 思いを発信する力

3 単元の目標

(1)地震発生時の防災における安全な街づくりのための活動を行うことを通して、命を守るための方法やそれを守る街の取組について理解し、地域の一員として災害に備えるためにできることを考え、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



4 単元計画の概要【全50時間】

(1)自分たちの避難行動について話し合って課題を見付け、安全な避難の仕方について調べ、学校の避難経路図上に危険な場所がないか調査した。



- ・教室の中で一番安全な場所は？
- ・家庭科室の時はどうすれば安全？
- ・それぞれの一番最適なルートは？
- ・体育館での避難をしてみたい
- ・防災頭巾以外に持ったほうがいい物
- ・本来の避難経路が通れなかったら、どこを避けば良い？

(2)東日本大震災のときの様子について、防災安全課の方から話を聞いたり、煙体験・消火体験をしたりして見聞を広げた。



(3)地域の防災行事に参加したり、調べたりして情報を集め、その中から実際に行えそうなことを考えた。



(4)学習発表会で、地域の方や保護者に向けて、みんなでできる防災について発表した。



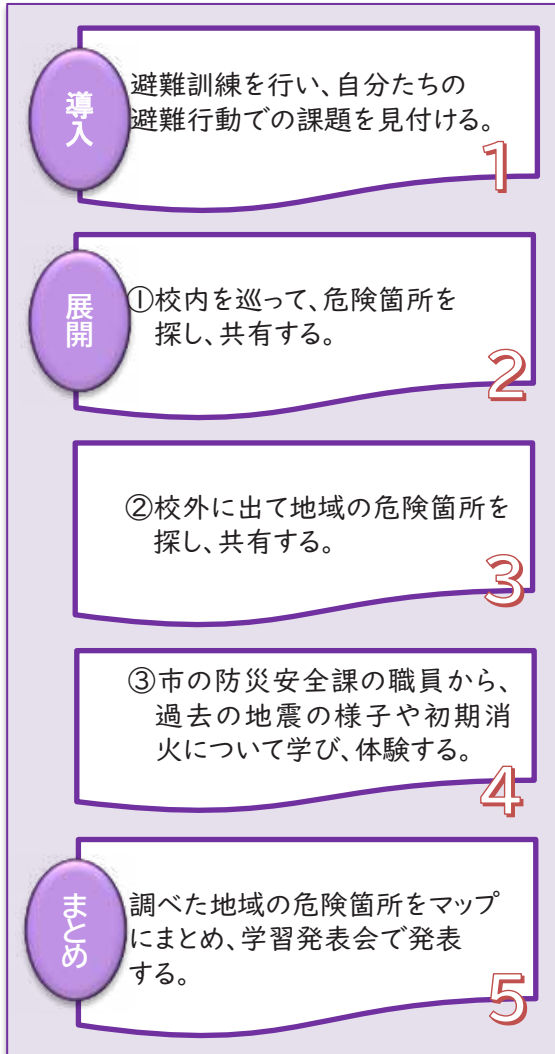
5 授業の紹介

【学校・地域の防災について調べる 第1時～第16時】

(1)本時の目標

- ア 自分たちの避難行動について話し合い、課題を設定する。
- イ 学校や地域に危険な場所がないか調べ、考えをもつ。

(2)授業の展開



音楽室の入り口
揺れて、移動してきそう。
扉が開いてものが出てきそう。
どうすれば良いか
離れたり、ロックかけたりする。

体育倉庫
ボールなどが
落ちてくる。
棚などの物から、
離れる。

地域の工夫
避難場所であることが分かるよう
に看板を立てている。

鉄塔などの、背の高い建物から離れる。
地震が起きた時にその場から離れて避難する。



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・すぐ潜ることだけでなく、倒れてきそうなところから離れたり、手すりにつかまったりしないと、自分の命を守れないことを知った。(避難行動の振り返り)
- ・地震では火災も起きることがあり、小さな火を見かけたら消火器などで消すことが大切。煙があるところはハンカチなどで口と鼻をふさぎ、しゃがんで壁に手を当てながら歩くことが命を守るために大切なことだと、下級生に伝えたい。(煙ハウス体験)
- ・避難経路を日頃から確認することが大切であることが分かった。昔に起こった地震の被害を忘れなければ、今地震が起っても悲惨なことは起こらないかもしれないと思った。

(1)成果

- ・防災に関わる様々な体験を通して、自分たちが本当に安全に避難できるのかを考えることから、学校・家庭・地域・多摩市全体へと目が向けられ、住み続けられる街にするために、防災に関する具体的な取組を考えることができた。

(2)課題

- ・児童が考えた提案や働きかけたことが何らかのよい影響を与えたと実感できる場の設定や取組を工夫していく必要がある。



1 各学校の成果と課題

□和田中学校

【成果】

- 身近なSDGsに着目し、自分と地域との関わりを意識したESDを進めることで、調査研究を他人事ではなく自分事として捉え、主体的に学びを深めることができた。
- ESDカレンダーを基として、教科等横断的な学習を行うことができたため、生徒の多角的視野の獲得への一助とすることができた。
- ICT機器を適切に用いたESDを行うことで、生徒の知識が増え、情報をまとめて発表する能力を向上させることができた。

【課題】

- 学校におけるESDの取組について、より効果的に地域社会へ発信するとともに、活動を本校のみで完結させるのではなく、地域におけるSDGs達成に向けた取組推進の旗印となれるような方策を考えていくことが課題である。

□多摩第二小学校

【成果】

- 「はるかひまわり」を用いた「二小にこにこひまわりプロジェクト」を通して、防災や環境についての意識、命を大切にするという人権についての意識を育むことができた。
- 身近な川についての学習や、平和教育・国際理解教育、環境教育などSDGsに深く関わる学習において、外部団体を招いたり社会科見学に行ったりした。それにより、多摩市や地球規模の課題を自分事として捉え、改善するために何ができるかを考えることができた。
- 学校全体で、自らが発案したことを自分たちでやり遂げるために、話し合いを繰り返し合意形成を図る習慣を付けてきた。それにより、批判的に考える力やあきらめずに取り組む意識を養い、自己理解を深めることができた。

【課題】

- SDGsに関する活動に多く取り組み、知識・技能を培ってきたが、学習が終わった後に自分の生活に生かそうという意識がまだ低いことが課題である。その活動を行うことで、身の回りにどのようなよいことが起こるのか、価値付けながら指導していく必要がある。



2 中学校区の取組の成果と課題

【成果】

- 小中合同で作成した「ESDを通して育成する資質・能力の段階表」を基として、9年間を見通したESDを進めることができた。
- 地域の中でのSDGsから始まり、日本、世界へと次第に考えを広げていくことができ、児童・生徒の視野を広げさせることができた。
- 小学校で培った環境についての知識・技能を生かし、自らの生活により一層密着した活動に取り組むことができた。

【課題】

- 同中学校区内のみではなく、他校区のSDGsへの取組も参考にし、より特色のあるESDを推進させていくことが課題である。
- 密に連携を取ることが難しく、互いの学校で扱っている学習を具体的に共有する機会が少なかった。児童・生徒が、ESDは小学校から中学校へつながっているという意識をもてるような体制づくりが課題である。

3 次年度以降の取組について

○小中連携したESDの推進

- ・それぞれの学校のESDの取組について、ロイロノートなどを活用し、共有して交流を行うことで相互理解を深めるとともに、SDGsへの理解を深めていく。
- ・小中連携事業を通して、小学校と中学校がより連携できるように情報交換をする。
- ・年に2回の小中連携の場で、職員同士がESDについて交流し理解を深める機会を設ける。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・授業内容がどのSDGs項目に対応しているのかを授業や单元ごとに明示し、児童・生徒の意識を高める。
- ・教科間の单元別SDGs相関図を作成し、教科等横断的なESDを推進する。
- ・SDGsに関する取組を、児童の委員会などを中心に定期的に行い、持続可能な社会を作るために何ができるか自分事にする意識を醸成する。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・一過性の行事としての意識ではなく、この会議が多摩市の未来を充実したものとするためのものであり、ひいては自分の未来に密接に関係してくるものであるという実感をもたせるための機会とする。
- ・児童・生徒が主体的に会議へ参加することにより、複数の意見を組み合わせ、深く考えて合意形成することの大切さや、自分の意見に固執せず他者の考えを受容することの大切さを学ぶことのできる機会とする。

令和7年度 ESD 推進校 実践のまとめ



多摩永山中学校



4 質の高い教育を
みんなに



永山小学校



瓜生小学校



多摩永山中学校区





【目次】

令和7年度 多摩永山中学校区 取組概要 17

【各校の実践】

□多摩市立多摩永山中学校 18

「多摩市の未来を考える
～多摩市への提言～」



□多摩市立永山小学校 20

「みんなで生きる町
～永山の未来～」



□多摩市立瓜生小学校 22

「未来をつくる！
エネルギー研究班」



□成果と課題 24



令和7年度 ESD推進校 取組概要

1 取組方針

中学校区で9年間を見通し、「『持続可能な社会の創り手』を育成するため、ESDで育てたい資質・能力を、地域や社会に関心をもって課題を見いだすとともに、課題を自分事として捉えて主体的に探究活動を進めていく児童・生徒の姿を目指す」とする。さらに、課題解決のために自分たちにできることを考え、発達段階に合わせ、社会に向けてアクションを起こせる児童・生徒の育成に重点を置く。自分たちが取り組んでいる学びをSDGsの視点で見つめ、価値付けることで、自らの学びと社会とのつながりや未来とのつながり等に気付かせ、意欲的・主体的に行動する意欲を高める。

2 取組設定の理由

高齢化や地球温暖化など、身の回りには解決すべき切実な課題が山積している。学校は、地域の核として、持続可能で住みよい地域にしていくための担い手を育成する必要がある。昨年度子どもみらい会議での「多摩市民一人一人がまちづくりに参加しているという意識をもって行動に移そう」を受け、SDGsの達成のため社会に向けてアクションを起こすことで、自分たちの探究活動が「持続可能な社会づくり」という大きな目標につながっているという意識をもつことができ、自己有用感を感じながら学びを進めていけると考えた。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し活用する能力
- 【意思・態度】環境や社会に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む態度
合意形成し協力・協働する態度
- 【探究する力】地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）
- 【思考力】多面的に見る力（関係性をふまえて観る力）

4 実践のポイント

- 【永山小学校】
 - ・「共生社会の担い手」を育成するために、地域にある「自然」「人」を学習材として、SDGsの視点を持ちながら、探究的な学習に主体的・協働的に取り組む。その中で6年生は、自分たちの住む町「永山」の未来に向けて、誰もが暮らしやすい町とはどのような町なのか考え、自分たちにできることを多角的な視点で調査・探究し、実践しようとする態度を育てる。
- 【瓜生小学校】
 - ・環境を一つの柱としてSDGsの視点を持ち、探究活動を行う。中学年は地域の自然に親しみ体感する活動を通して、自然を大切にしたいという意識をもたせる。5年生は様々な環境問題に目を向け、社会全体に視点を広げる。6年生は地球温暖化を解決する一つの糸口として、遮熱・断熱、エネルギー問題に目を向け、学習を進める。
- 【多摩永山中学校】
 - ・持続可能な社会の担い手となる生徒の資質・能力の関連を踏まえ、ESDの推進を通して、SDGsに基づく地球的視野に立った様々な課題を相互に関連付ける。また、生徒の主体的で持続可能なSDGsへの取組を実践する。第1学年においてハケ岳移動教室におけるESDの活動をはじめとして、校内の各種委員会でのSDGsの達成に向けた活動を行っていく。

1 単元名(教科・領域)・学年

「多摩市の未来を考える ～多摩市への提言～」

全学年で実施(掲載は第1学年のもの)

(総合的な学習の時間(35時間)、学習を補充・深化・統合させるための道徳の授業(4時間・C-16)・第1学年



2 ESDを通して育みたい資質・能力

■自分たちの住む町について知り、提言としてまとめることで持続可能な社会について考えを深める力

■自らも多摩市の社会に参画する1人であることを自覚し、自分たちが多摩市の未来のためにできることについて考えるとともに、自分たちにとって過ごしやすい町にするための発信を行う力

3 単元の目標

- (1) 学年での取り組みが、第二次多摩市教育振興プラン(改訂版)の推進を通して多摩市が目指す町づくりの一つである「人と学びを未来につなぐまち」の実現にどう関連付けられるかを考え発表すること。
- (2) 将来を通して、よりよい人生を送るにはどうすればいいかを考えられるように、協働でき、社会に貢献できる学びができる生徒の育成を目指すこと。

4 単元計画の概要【全35時間】

- (1) 長野県八ヶ岳多摩市立少年自然の家での体験活動での学び。【15時間】
 - ・体験活動とSDGsを関連付け、学習テーマを設定した。
 - ・学習した中で、印象に残ったことをまとめた。



- (2) ミッションステートメント作成【夏休みの課題】
 - ・自分が思い描く将来を考える。
 - ・実現させるために必要となることを考えた。
- (3) 身近な職業調べ【夏休みの課題】
 - ・調べた内容で印象に残っていることをまとめて、発表した。



身近な職業調べ発表会の様子



(4) 多摩市の未来を考える【4時間】

- ・自分の望む将来を実現させるために、何をどこで、どのように学ぶかを考えた。

提言作成に向けた授業の様子



- (5) よりよい人生を送るために必要なことを考える【16時間】
 - ・協働的な学びを通して職業観を育み、自分の将来について考察した。

5 授業の紹介【(4)多摩市の未来を考える 道徳4時間】

(1)本時の目標

- ア「人と学びを未来につなぐまち」多摩市で生きるために、自分の学びをどう生かしていくか考え提言にまとめる。
- イ 友達との話し合い活動を通して、他者と協働しながら問題解決していく方法や手順を理解する。

(2)授業の展開

導入

5月の移動教室から今までの学びについて振り返る。 1

展開

多摩市への提言を作成し、班で共有する。 2

3

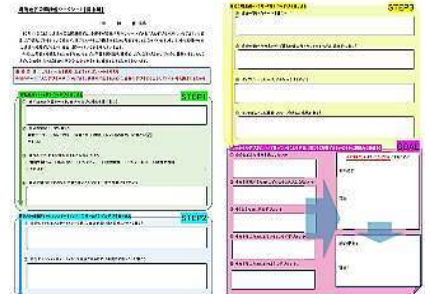
クラスでの発表活動を通して、意見をまとめる。 3

4

提言にまとめたものを、全校生徒、保護者に向けて発表する。
(道徳授業地区公開講座) 4

まとめ

読み物資料「帰郷」を使用し、多摩市のために自分にできることを改めて考える。 5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・多摩市にはもっと発展してもらいたいが、この「ぬくもり」が消えてほしくはない。実現するのは難しいかもしれないが、そうなったら素敵だなと思う。
- ・いつか、多摩市で暮らすとしたら、多摩市のためではなくて高齢者など住む人々のためにいろいろな活動をしていきたいと思った。
- ・自分の住んでいるところを優しさがあふれるようにするために、自分は人にやさしくして、その優しさを人から人へとつないでいきたい。

(1)成果

- ・年間を通してつながりのある学習活動を展開することで、一つ一つの活動が単発にならずに、一貫して指導を行うことができた。そのことによって、生徒は目的から逆算して考える習慣を身に付けることができた。
- ・「多摩市への提言」を通して、自分たちの学びの方法や成果が、市の発展にどう貢献できるか、具体的に考えることができた。

(2)課題

- ・「多摩市への提言」を校内での発表活動にとどめず、実際に市政に提言し、実践していくようにすることがESDであり、今回はその段階まで到達できなかった。そのため年間計画の再構築やカリキュラムの検討をし、より実践的な取組にすることが求められる。

1 単元名(教科・領域)・学年

「みんなで生きる町～永山の未来～」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 社会に関心を持ち、多様性を尊重し、共生する態度
- 自らも永山の地域や社会に参画する1人であることを自覚し、地域社会の課題を見付け出し、解決する力

3 単元の目標

- (1) 誰にとっても住みよい町とはどんな町なのか、体験したことをもとに、地域の一員として考えることができる。
- (2) 誰もが安全に安心して暮らせるよう、よりよい町にするにはどんな工夫や取組ができるのかを考え、自分たちの生活に生かすために行動することができる。
- (3) 永山の未来を考えるを通して、地域の一員として生きていこうとする態度を身に付けることができる。



4 単元計画の概要【全30時間】

- (1) 地域にはどのような立場の人がいるか考えた。
 - ・車椅子ユーザーのゲストティーチャーの話や車椅子体験を通して、当事者がどのような生活をしているか知った。また、永山の地域には他にはどのような立場の方がいるか考えた。



- (2) 自分たちが実行できることを考えた。
 - ・どのような立場の人に対して行動を起こすのか自己決定し、その立場の方が困っていることについて調べたり整理したりした。
 - ・その中で自分たちが実行できることを考えた。



- (3) ゲストティーチャーをお招きし、自分たちにできることを実行した。(高齢者体験、視覚障がい・聴覚障がい当事者)
 - ・高齢者体験では、ゴーグルとイヤーマフを使用し、実際に体験することで、「自分事」として考えた。
 - ・視覚障がい者、聴覚障がい者のゲストティーチャーをお招きした際には、自分たちが考えた「実行できること」を生かして、当事者の方をアテンドした。それが当事者のニーズに合っていたか、講話の中でお話していただいた。



- (4) 「みんなで生きる町～永山の未来～」で学習したことをまとめ、校内や地域に発信した。

5 授業の紹介

【当事者の方をお招きして「できること」を実行しよう! 第20時】

(1) 本時の目標

- ア 自分たちが考えた「実行できること」が当事者のニーズに合っていたか考えることができる。
- イ 当事者の方の話を聞き、「自分たちに実行できること」を再度考えることができる。

(2) 授業の展開

導入

自分たちが考えた「実行できること」を実行しながら、当事者の方をアテンドする。 1

展開

①自分たちが調べた「当事者が困っていること」や、それに対して考えた「自分たちにできること」を発表する。 2

②当事者の方から、発表について助言をもらい、自分たちの考えと当事者の求めているものを再度確かめる。 3

③当事者の方からの講話や助言をもとに、「自分たちにできること」の内容を修正する。 4

まとめ

共に永山の地域で生きる一員として、「自分たちにできること」を地域に発信する方法を考える。 5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・視覚障がいがある方と一緒に歩いてみた際に、自分で考えた支援の仕方だけでなく、実際に当事者の方から指摘されたことを生かしてみたところ、うまくいった。この経験を広め、視覚障がいがある方をサポートしていきたい。
- ・目が見えないだけで、いろいろな活動が困難になると感じた。
- ・学習を通して、最も重要なのは、障がいのある人もない人も、お互いを認め合い、一人一人が身近なところから行動することだということが分かった。特別なことでなくても、「心遣い」や「配慮」から始めることができる永山の町にしていきたい。

- ・当事者の方の話を聞いたことで、より具体的に当事者の立場を理解することができた。学んだことを生かして、安心して暮らせる町にするためにはどのような工夫が必要か考え、協働的に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・次のステップである「広める」段階において、学んだことをどのような方法で地域に広めていくかが課題である。

1 単元名(教科・領域)・学年

「未来をつくる!エネルギー研究班」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 多面的に見る力(関係性をふまえて観る力)
- 地域や社会の活動に参加する力(社会参画力)

3 単元の目標

- (1)地球温暖化の現状を知り、発電を中心とした二酸化炭素の排出量削減について取り組むことを通してこれからの発電について自分の考えをもつ。
- (2)遮熱・断熱をはじめとして、厳しい暑さや寒さを防ぐためにできることを実践し、環境に優しい生活・社会を築いていこうとする意欲を高める。

4 単元計画の概要【全70時間】

- (1)発電による二酸化炭素の排出量を減らすことは可能なのかを考えるため、様々な発電方法について調べて発表した。それぞれの発電のメリット・デメリットを座標軸で整理し、これからの発電について考えた。



- (2)実際に校庭や校舎内の気温を測り、暑さの現状を調査した。直射日光の当たる場所は、非常に高い温度になることを確認した。

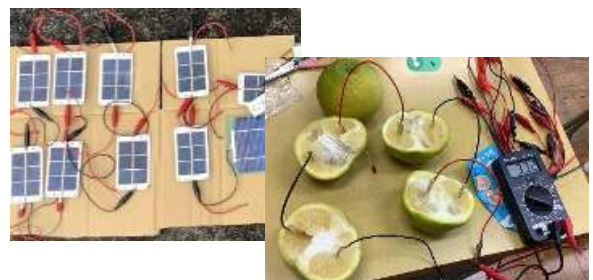
	7日(月)		8日(火)		9日(水)	
	中休み	昼休み	中休み	昼休み	中休み	昼休み
校庭の中央	50	50	50	50	50	50
ピロティ	28.9	29.2	29.3	27.9	29.4	29.4
芝生	40	41.9	38.3	35.8	45.6	45.6
鉄棒	41.6	38.1	44.7	36.1	45.1	45.1
お礼台	44	25	50	50	50	50
5号小室	38.8	36.3	36.3	20.0	36.1	36.1



- (3)夏休みは、各自、暑さから暮らしを守る工夫に挑戦した。暑さから暮らしを守るには、直射日光を遮ることが効果的だという考察から、教室の窓に遮熱・断熱シートを貼って、効果を検証した。シートを貼ることで気温上昇が抑えられることが分かった。

時刻	9月25日 エアコン入れない (気温 27度)			
	児童会室 教室中央床	シートなし 窓越し 直射日光床	6-1 教室中央床	シートあり 窓越し 直射日光床
9:00	29.8	33.2	28.9	27.0
10:00	29.2	40.4	27.3	29.2
10:30	29.5	41.2	27.0	28.1
13:30	30.0	39.9	26.9	28.3

- (4)温暖化への対策として、暑さから暮らしを守る工夫とともに、二酸化炭素の排出量を減らすことが大事だという考えから、自分たちができる再生可能エネルギーによる発電に挑戦した。環境に優しい未来を目指し、自分たちの思いを地域イベントに参加して発信することにした。



5 授業の紹介【「夢灯り」で思いを伝えるために 第52時】

(1) 本時の目標

ア 「再生可能エネルギーによる発電で、地球温暖化を少しでも止めたい」という自分たちの思いを伝えるため、再生可能エネルギーによる発電の魅力を地域の人に発信する方法を工夫することができる。

(2) 授業の展開

導入 地域行事「夢灯り」に参加したいという思いを確認する。 **1**

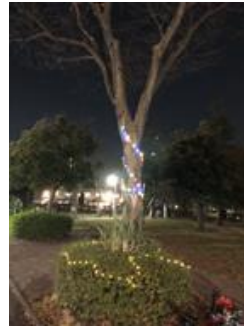
展開

① 地域行事「夢灯り」で発信することの意味について話し合う。 **2**

② 自分たちの思いに対して、予想される反論と、それに対する自分たちの思いをバタフライチャートで整理する。 **3**

③ 自分たちの思いを的確に伝えるための発表内容について、グループごとにくらげチャートで整理する。 **4**

まとめ 夢灯りで伝えたいことについて、他のグループと意見を比較した上で、自分たちの発表内容を再検討する。 **5**



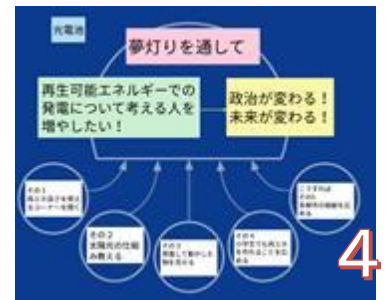
1



2



3



4



5



5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童の学習の評価(意見・感想等)

・小学生でも、CO₂を出さない環境に優しい再生可能エネルギーで電気を作ることができることを知ってほしい。知った人たちが周りの人に話すことで再生可能エネルギーの魅力が多くの人に伝わるようにしたい。市民の声で政治が変わり、もっと環境に優しい生活が広がるのではないかなと思う。

・再生可能エネルギーに興味をもち、増やしていきたいという意見が増えれば、再生可能エネルギーはもっと増えていくと思う。僕たちの活動が、温暖化を止められるという希望につながるようにしたい。

(1) 成果

・夏の暑さ調査や遮熱・断熱シートの効果検証など、身近な生活の中での地球温暖化の現状と生活を守る工夫について考えられたことで、環境問題を自分のこととして考えることができた。発電への挑戦はエネルギー問題を考えるための効果が大きかった。

(2) 課題

・十分な調査実験時間の確保が課題である。

ESD推進校の成果と課題



1 各学校の成果と課題

□多摩永山中学校

【成果】

- 「多摩市への提言」では、各学年でのそれまでの学習を踏まえた提言ができた。
- 各種委員会における活動では、日常の活動がSDGsにどのように関わっているかを考える機会となり、生徒の主体性から具体的な取組をすることができた。
- 第1学年による、ハケ岳移動教室では、体験活動を通して、自らの取組がSDGsにつながっていることが理解できた。

【課題】

- ハケ岳移動教室や委員会活動での取組など、例年同様の活動を続けながらも、新しい取組を取り入れることが必要と感じた。

□永山小学校

【成果】

- 学習の導入において、ゲストティーチャー（永山地区で生活されている車いすユーザーの方）から直接話をうかがったことで、住みよい町とはどのような町なのか「自分事」として捉え、自分たちにできることを真剣に考える動機付けにつながった。
- ゲストティーチャーの話聞くことを通して、自分たちが考えた「実行できること」を生かしてアテンドすることで、当事者の方をより身近に感じ、地域の一員として「今後も行動を起こしていきたい」という、主体的に行動する意欲を高めることができた。

【課題】

- 児童が選んだ立場の方が必ずしもゲストティーチャーに来られる訳ではないため、早くから地域や行政機関との連携をしながら指導の計画を立てていく必要があった。

□瓜生小学校

【成果】

- 夏の校庭・校舎内の様々な場所の気温測定からスタートし、遮熱・断熱シートが気温の上昇を抑えることを検証できたことで、暑さから暮らしを守る方法について、具体的に考えることができた。遮熱・断熱の工夫が、環境に優しい生活の実践につながることも実感できた。
- 再生可能エネルギーによる発電に挑戦した際に、ゲストティーチャーからの取組に対しての価値付けは、児童が自分たちも持続可能な社会づくりの一員として行動しているのだという自己肯定感の高まりにつながった。

【課題】

- エネルギーについては様々な考え方が存在する。考えの偏りが無いように、様々な資料や情報を比較し、客観的に判断できるようにする手だてが必要である。
- 新聞やニュース、日常の生活で見聞きしたことなど、生活の場から情報を集め、普段から自分事として問題意識をもって生活する児童を育成することが課題である。



2 中学校区の取組の成果と課題

【成果】

- ESDを通して育成する資質・能力を統一させたことで、9年間を見通して児童・生徒に身に付けたい力が明確になり、発達段階に応じた課題設定や探究活動を充実させることができた。
- 児童・生徒が取り組んでいる学びをSDGsの視点で見つめ、価値付けることは、自らの学びと社会とのつながりや未来とのつながり等に気付かせるのに有効だった。
- 3校とも永山地区にある学校として、町づくりの観点から、身の回りの解決すべき課題に取り組んだ。身近な生活に根差した探究活動は、解決すべき課題を自分事として考えるのに有効だった。身近であるがゆえに、実践・発信等の形に自然につながった。学びを社会に発信する活動は、社会とのつながりを実感するだけでなく、自己有用感を育む効果があった。

【課題】

- 互いの学校の取組の情報共有は、各校の取組でのものの見方を広げるなど、学びの深まりに効果があったが、時間の確保が難しく、十分な交流ができたとは言えなかった。計画的に情報共有を進める仕組みづくりが課題である。
- 他校の児童・生徒と話し合い、理解し合うなど、合意形成する力の育成が課題である。また、そのための機会づくりをカリキュラムに位置付け、効果的に力を育むことが課題である。

3 次年度以降の取組について

○小中連携したESDの推進

- ・ESDを通して育成する資質・能力の段階表で重点を置く項目を中学校区で共通のものとし、それに沿った取組を継続する。ESD研修の場以外でも、各校の取組に関する情報交換を定期的に行う。
- ・小中連携事業を通して、各学校のESDの取組への理解を深める。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・児童・生徒が取り組んでいる学びをSDGsの視点で見つめ、価値付けることで、自らの学びと社会とのつながりや、未来とのつながり等に気付かせ、意欲的・主体的に行動する意欲を高める。
- ・課題につながる当事者や専門家など人との出会いや、本物に触れる体験などを通し、SDGsの項目を具体的に意識できるようにする。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について、児童・生徒に周知し、自分たちの思いを届けられる場が保障されていることを実感させる。子どもみらい会議の場は、行政を含めた様々な人たちと一緒に未来を考える場としての価値が高い。会議で発信されるメッセージがその場だけのものでなく、日々の各学校の実践につながるように校内に周知し、確実に生かしていく。

令和7年度ESD推進校 実践のまとめ



落合中学校



西落合小学校



東落合小学校



落合中学校区





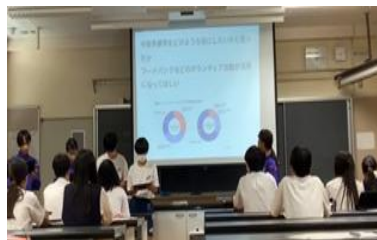
【目次】

令和7年度 落合中学校区 取組概要.....29

【各校の実践】

□多摩市立落合中学校.....30

「落合中みらい会議」



□多摩市立西落合小学校.....32

「2050年の多摩市のために
私たちができること」



□多摩市立東落合小学校.....34

「みらいのまちづくり
プロジェクト」



□成果と課題.....36

令和7年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

地域の未来を担う児童・生徒が、自ら課題を見だし、協働し、持続可能な社会づくりに参画する力の育成をする。そのために、地域の未来を見据えた街づくりを児童・生徒主体で考えることを重視し、発達段階に応じて幅広く実践を行う。教育課程にSDGsを位置付け、小中学校の9年間で段階的・学校種横断的に実施し、ESDの取組を通して3校が共通して「よりよい街づくり」に取り組む。

2 取組設定の理由

多摩市では、人口動態の変化や地域コミュニティの希薄化、環境保全、防犯対策など、持続可能性に関わる課題が多様化している。児童・生徒が将来地域を支える存在になるためには、これらの課題を「自分ごと化」し、地域の一員として主体的に関わる力が必要であると考え。そこで、落合中学校区ではSDGsの目標を基にした地域調査・実践活動を行い、「住み続けられる街づくり」「安全・防犯」「スポーツを生かした街のPR」など身近な課題に取り組む流れが確立している。小学校での体験を基盤に、中学校でさらに深い探究へ発展させることができると考える。SNSを使った情報発信や、夏休みの個別実践活動、最終発表など、学んだことを社会に向けて表現する場が豊富であり、社会参画の意識を高められる。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を収集し、整理し、活用する能力
- 【意思・態度】地域社会に関心を持ち、自ら進んで取り組む態度
- 【探求する力】コミュニケーションをとり、協働する能力
- 【思考力】考えを深める能力

4 実践のポイント

【落合中学校】

家庭での取組からフィールドワークまで、多様な実践活動を認めることで、生徒の主体性を保障する。対話に基づく学びを重視し、相互理解と深まりを生み出す。グループが発表する場を設け、活動の価値と社会的意義を実感させる。

【東落合小学校】

多摩市のよさ・魅力、課題・改善点について考えた上で、多摩市のあらゆる情報を収集する。ハケ岳移動教室に行き、見たり、体験したりしたことを生かし、多摩市と比較し、自然環境、観光、スポーツ、特産物などの課題についてまとめ、提案する。

【西落合小学校】

「誰一人取り残さない」社会の実現への取組例を知るために、多摩市の街や西落合小学校の課題を考える。課題解決のための情報を収集し、行動してみたり調べたりしてみたことを整理して、発表会に向けて準備を行う。「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた提案を行う。

1 単元名(教科・領域)・学年

「落合中みらい会議」

(総合的な学習の時間)・全学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■物事への向き合い方を学び、自己理解へとつなげる力

■他者とともに協働して取り組む姿勢

3 単元の目標

- (1)世界や日本が抱える課題を知り、解決に向けて実践する。
- (2)ICTを用いて情報を整理し、活用する。
- (3)地域社会の一員として他者と協働し、積極的に行動する。

4 単元計画の概要【全5時間】

- (1)SDGsの17の目標から気になるもの、興味のあるものを選び、先の活動に向けて見通しを立てた。



- (2)1時間目に選んだテーマに沿って調べ学習を行い、夏休みに行く実践活動に向けて計画を立てた。



- (3)夏休みに取り組んだことを班で共有し、発表の準備を進めた。



- (4)それぞれが異なるテーマについて、グループ内で発表を行った。



5 授業の紹介【第5時】

(1) 本時の目標

ア SDGsの取組について理解し、実践する。

イ 多摩市をよりよい街にするための課題を発見し、解決しようとする事ができる。

(2) 授業の展開

導入

SDGsのそれぞれのテーマについて調べ、多摩市における課題について考える。 1

展開

① 課題解決のために行われている実践例と、自分たちができることについて調べる。 2

②①で調べたことを基に、夏休みに実際に家庭や地域で行われている取組に参加する。 3

③②で取り組んだことをグループ内で共有し、最終発表に向けて資料作りを行う。 4

まとめ

①～③で学んだことをまとめた資料を作成し、グループ内で発表を行う。 5



多摩市の取り組み

カフェや遊具などが増えた状態で中央公園のリニューアルオープン

チェーン店だけでなく個人経営のお店も増えている

「多摩魅力発信プロジェクト」というプロジェクトサイトで、多摩市の魅力を知れる



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・テーマや取組について聞いたことはあっても、実際に取り組むことでその現状を知ることができた。
- ・それぞれのテーマに関する社会的な課題について、自分事としてとらえることができた。
- ・「なんとなく」で終わらないように、活動後も家庭で実践を続け、自分にできることについて考えるようになった。
- ・他学年との交流が生まれ、様々な意見を聞くことができた。
- ・自分の行動一つ一つに責任をもてるようになった。
- ・調べてみると、身近なところでも実際に取組がなされていることを知れた。

(1) 成果

- ・それぞれの生徒が、多摩市をよりよい街にするための工夫について、様々な角度から理解を深め、課題に向き合い、解決のために行動に移すことができた。

(2) 課題

- ・これからも地域社会と協働して積極的に行動することや、時代の変化に合わせて様々な方策を考えていく必要がある。

1 単元名(教科・領域)・学年

「2050年の多摩市のために私たちができること」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 多面的・総合的に考える力
- 課題解決のために他者と協力する力

3 単元の目標

- (1) SDGsの17のターゲットについて、それぞれの概要を理解する。
- (2) 「誰一人取り残さない」社会の実現を図るために、自分の身の回りの課題を考え、それを解決する方策を提案することができる。
- (3) 「誰一人取り残さない」社会の実現のために、自分にできる取組をしていこうとする心や態度を育む。



4 単元計画の概要【全20時間】

- (1) 「誰一人取り残さない」社会の実現への取組例を知った。



- (2) 多摩市の街や西落合小学校の課題を考えた。



- (3) 課題解決のための情報を収集した。行動してみたり調べたりしてみたことを整理して、発表会に向けて準備した。



- (4) 「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた提案をした。



5 授業の紹介【「2050年の多摩市のために私たちができること」全20時間】

(1)単元の内容

ア SDGsの取組について理解する。

イ 「誰一人取り残さない」社会の実現を図るために、自分の身の回りの課題を考え、問いをもつことができる。

ウ 「誰一人取り残さない」社会の実現のために、自分にできる取組をしていこうとする心や態度を育む。

(2)授業の展開

導入

SDGsの目的を理解する
SDGsの目標達成のための取組例を知る。 1

展開

SDGsの目標を念頭に、多摩市の街や西落合小学校の課題は何かを考える。 2

課題解決のための情報を収集したり調査活動をししたりする。 3

情報を比較検討し、課題解決のためにどのようなことに気を付けて生活したり、どのような工夫をさらにしたりしなければならないかを話し合う。 4

まとめ

調査した結果から、「誰一人取り残さない」社会の実現のために自分たちができることを考える。 5



ゴミ拾いで集まったごみ

9月12日 1時間20分のゴミ拾いで集まったごみ

ペットボトル	燃えるゴミ・汚れたプラスチック	缶 (アルミ缶やスチール缶)
4個	約450g	4個

集めたごみは地域のルールに従い、適切に処理しました。



まとめ・主張

- 1・ゴミ拾いをする。
- 2・集まったゴミでゴミアートを作る。
- 3・ゴミアートはパルテノン多摩やVITA MALL SEISEKIなどに飾る。
→買っていただける方を探す。
- 4・ゴミアートを売って得た収益は多摩市に寄付。

↓

多摩市の市民サービスや市の仕事に活用。

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

・SDGsはテレビやニュースの中だけのものではなく、ぼくたちの学校や住んでいる多摩市、そして自分の生活と深くつながっていることが分かった。これまでは「世界の問題」として考えていたが、電気の使い方や食事、地域の人のとの関わりなど、身近なところにも課題があることに気付いた。

・実際にやってみたことで、計画と現実の違いにも気付いた。「やってみよう」と考えるのは簡単でも、「続けること」や「周りの人を巻き込むこと」は簡単ではなかった。しかし、その難しさを知ることができたこと自体が、今回の学習の大切な成果だと思った。

(1)成果

- ・SDGsのターゲットを単なる知識としてではなく、「多摩市」「西落合小学校」「自分の生活」と結び付け考えるようになった。
- ・「誰一人取り残さない」という理念を、高齢者・障がいのある人・環境・地域のつながり等、具体的な場面で考えるようになった。

(2)課題

- ・学習と日常生活をつなげ続けるための振り返りや声掛けの工夫が必要である。

多摩市立東落合小学校

1 単元名(教科・領域)・学年

「みらいのまちづくりプロジェクト」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 多面的・総合的に考える力
- 未来像を予測して計画を立てる力

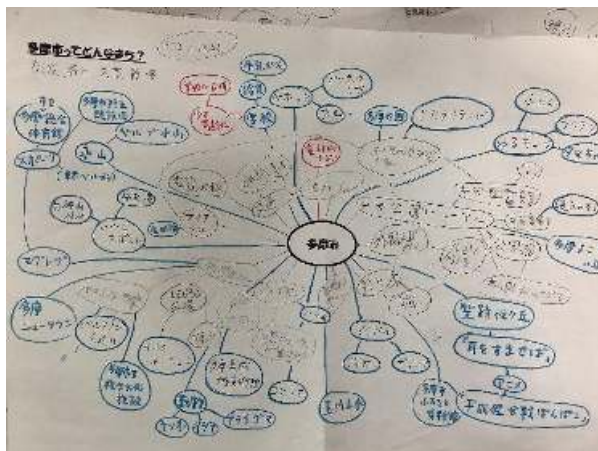
3 単元の目標

- (1) 課題解決を目指し、収集した情報を取捨選択し、情報を比較したり、関連付けたりして、理由や根拠をもって、自分の考えをまとめることができるようにする。
- (2) 自然環境や都市環境、身の回りの環境などに興味をもち、「みらいの多摩市」についての方策を考えることができる。
- (3) 自分たちの街について調べることを通して、自分たちの街をより良くするための課題を見付け、よりよい街づくりを考える探究的な活動に、主体的・創造的・協働的に取り組むことができる。



4 単元計画の概要【全40時間】

- (1) 多摩市の良さ・魅力、課題・改善点について考えた上で、多摩市のあらゆる情報を収集した。



- (2) ハケ岳移動教室に行き、見たり、体験したりしたことを生かし、多摩市の魅力と比較した。



- (3) 久留米工業の東氏をお招きし、「インテリジェントモビリティサービス」について学んだ。



- (4) 自然環境、観光、スポーツ、特産物などの課題についてまとめ、提案した。



5 授業の紹介【情報の収集 第20・21時】

(1) 本時の目標

- ア インテリジェントモビリティサービスについて知り、体験活動を通して、その役割を知る。
- イ 課題解決に向けて、どんな提案ができるか考え方を知る。

(2) 授業の展開

導入

インテリジェントモビリティサービスとは何かを知る。

1

展開

①どんな思いで、誰に作られたものかを知る。

2

②試乗体験する。

3

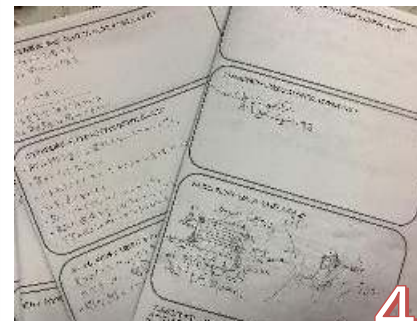
③もっと発展させるためには、どんなことができるか提案する。

4

まとめ

考えた案を共有する。

5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・新しいことを提案したり、アイデアを生み出したことは、とても楽しい。
- ・誰かの願いを叶えるために、実際に実現していることが素晴らしい。
- ・講師の先生も苦労しているのに、自分たちの課題が実現するなんて、難しいと思う。

(1) 成果

- ・不便さを感じている人や何か願いを持っている人の願いを実現している人がいることを実体験できた。
- ・課題に対して、どう解決していくのかという考え方を知ることができた。

(2) 課題

- ・自分たちが設定した課題とリンクさせて考えられる児童が少数になってしまった。



1 各学校の成果と課題

□落合中学校

【成果】

- 現代社会の課題について考えることができ、課題解決に向けて一人一人が真剣に向き合い、実践的な活動を行うことができた。
- 学年の垣根を超え、活発にコミュニケーションが交わされたことで、学校全体でSDGs達成に向けた活動を行うことができた。

【課題】

- 実践的な活動をするにあたり、取り組みやすいテーマに集中するなど、活動の幅が絞られてしまう。
- 全校縦割りで活動を行ったため、グループ内で取組に差が出てしまい、学年が高いほど会の進行や課題解決に向けての協議における負担が増えてしまう。

□東落合小学校

【成果】

- 「住み続けられる街づくり」の実現のために、地域・福祉・国際理解・自然環境と学年ごとにテーマを設定して、ESDの理念を基に学習活動を推進したことで、学年間の系統性をもって学習活動を行うことができた。
- 総合的な学習の時間をESDと関連させて推し進めたことで、「地域の中の学校」として、学校が地域のために何ができるのか、より具体的に検討することができた。

【課題】

- 地球規模の現代的な課題を、児童一人一人に、どのようにして自分の問題として捉えさせるのか、学習活動の展開の工夫の仕方を検討する必要がある。
- 特に総合的な学習の時間について、ESDと関連させた、単元を通した一連の学習活動の展開の仕方について、校内で共有・統一する必要がある。

□西落合小学校

【成果】

- 課題解決を「考えるだけ」で終わらせず、節電・節水、啓発活動など、実際の行動につなげようとする意欲が高まった。
- 特に、「誰一人取り残さない」という理念を、環境・福祉・地域交流など複数の視点から考え、身近な課題として言語化する姿が見られた。
- 自分一人ではなく、友達や家族、地域の人と協力する必要性に気付き、社会参画への意識をもつ児童が見られた。

【課題】

- 課題が抽象的であったり、規模の大きいものになりやすく、解決策が「意識を高める」「協力する」といった一般的な表現にとどまったりする児童が一部に見られた。
- 学習直後は意欲的に行動しようとする姿が見られた一方で、時間の経過とともに実践が継続しにくいという課題がある。学習後も振り返りの機会を設けるなど、日常生活の中で行動を定着させていくための仕組みづくりが求められる。



2 中学校区の実践の成果と課題

【成果】

- 現代社会の課題に向き合い、実践的な活動を行うことで社会貢献につなげることができた。
- 地域と協働して取り組むことの大切さに気づき、社会参画への意識を高めることができた。
- 他者と協働して取り組む姿勢を育むことができた。

【課題】

- 世界的に挙げられている課題を、「多摩市」としてどのように解決していくことができるのか、調べ学習で終わらないように工夫する必要がある。
- 実践的な活動となると、取り組みやすいテーマに集中してしまう可能性があるため、テーマ選択の幅を広げ、活動に多様性が生まれるよう工夫する必要がある。

3 次年度以降の実践について

○小中連携したESDの推進

- ・小中連携した発表交流会などを通して、定期的に活動報告を行い、小中 9 年間を通してESDを行っていきたい。
- ・小学校ではSDGsの基礎・基本的な考えの基に、SDGs達成に向けて必要なことが何かについて考え、中学校では実践を視野に入れ、社会貢献のために実際にできることについて考える。
- ・段階的なESDによって、やって終わりにしない工夫を行っていきたい。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・中学校区全体でESDを盛り上げるためにも、活動の意義を明確にし、頻繁に成果報告を行い、達成感を得られる機会を作りたい。
- ・地域の特徴を生かした活動を盛り込むことで、地域密着・地域交流につなげ、「多摩市」としてESDを盛り上げていく必要がある。
- ・小中連携の中で、先の見通しを立て、継続的に取り組む工夫を行っていく。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・ICTの活用により、効率的かつ円滑に協議を進め、「住みやすい街、多摩市」のためにできることについて考えられるようにする。
- ・「考えるだけ」の活動にならないように、普段の生活でも活用できる取組にする。
- ・小中合同で未来について話し合うことで、児童・生徒の考えの変化や、多角的な視点で考えることの大切さに気づくことができるようにする。
- ・学校のみならず、地域や行政機関とも連携し、よりよい社会にするための方策について考えられるようにする。

1 単元名(教科・領域)・学年

「エネルギー～発電について考えよう～」

(総合的な学習の時間)・第6 学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 他者との関わり合いを通してものの見方や考え方を広くもつ力
- 課題解決のために事象を比較したり、関連付けたりしながら筋道立てて自分の考えをまとめる力

3 単元の目標

- (1) 再生可能エネルギーの仕組みや重要性について理解する。
- (2) 効果的な探究方法を考え、工夫して発電する。
- (3) 自分たちの生活を見直し、エネルギーの使い方を考える。

4 単元計画の概要【全68時間】

- (1) 電力について考える。
- (2) 発電方法にどんなものがあるかを知る。
- (3) 実際に発電させてみる。
- (4) 環境に優しい発電を広めるために何ができるか考える。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・地域の方やゲストティーチャーを招き、環境を守るための活動を知ることや、体験活動を通してより実感をもって環境問題を理解することができた。
- ・まずは教室環境を変えるために、夏休みにそれぞれが遮熱実験を行い、実験結果をもち寄ったことで、自分たちで教室を熱から守ろうと、意欲をもって活動にあたることができた。

【課題】

- ・電力を消費することが地球温暖化につながることは分かっているが、実際にはエアコンの使用頻度は上がっているため、再生可能エネルギーを生み出し、自分たちの生活を支える電源の確保を追究していくことが今後の課題である。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・5年生で学んだ環境問題と、今回の遮熱・断熱の実験や再生可能エネルギーの必要性と問題点について考えることができた。
- ・実際に家で実験を行ってみると、学校でもできることがあり、実践してみたくなった。



1 単元名(教科・領域)・学年

「地球環境を守ろう!!今、わたしたちにできること」
(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 課題を見つめ、解決する力
- 自分の思いや考えを発信する力

3 単元の目標

地球上で起きている環境問題に関心をもち、その影響、原因、対策等を調べたり、環境問題を自分事として捉え社会の一員として対策を考え、実践したりすることを通して、持続可能な社会の実現に向けて問題を解決していこうとする態度を養う。

4 単元計画の概要【全55時間】

- (1) 環境と関わりの深い SDGsの目標について調べることを通して、世界には様々な環境問題があることを知る。
- (2) 環境問題について調べるテーマを決め、学習計画を立てる。
- (3) テーマごとにグループに分かれて、「調べる」「自分たちにできそうなことの計画を立てる」「実際に取り組む」「振り返る」の順に学習を進める。
- (4) 調べて分かったことや実際に取り組んだことなどを、同学年、他学年、保護者の方々に発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・自分自身でテーマを決めて調べ学習を行い、体験活動、学びの共有という流れにしたことで、高い意欲で学習を進めることができた。

【課題】

- ・学習が終わった後も、環境問題の学びを振り返り、確認し、考える機会をつくる必要がある。
- ・自分たちができるところを実践できる場をもち、さらに追究ができるような学習をしていく必要がある。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・2050年、2100年など今後の地球に危機が迫っていることを知り、SDGsの目標の重要性が分かった。だからこそ、今、私たちにできる取組をしていきたい。



児童が実際に取り組んだ実験の様子

扇風機の後ろに凍らせたペットボトルを置くとうんぬん…?



1 単元名(教科・領域)・学年

「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」

(総合的な学習の時間)・第5 学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 困難な課題にも粘り強く取り組む力
- 共通の目標に向け友達と協力して活動する力
- 自然環境や動植物に配慮し、命を大切にする力
- 未来に向け、よりよい環境や社会を作ろうとする力

3 単元の目標

- (1) 仲間や専門家、地域の人々と関わりながら「SATOYAMA」の探究活動を行いながらその特徴を理解する。
- (2) 課題探究の力を身に付け、自然と共生する「SATOYAMA」の価値や地域のよさに気付く。
- (3) 「SATOYAMA」に自分たちがどのように関わっていけばよいのか考える。

4 単元計画の概要【全70時間】

- (1) 森林調査
 - ・谷戸田・桜ヶ丘公園での調査活動(全体)
- (2) SATOYAMA 博士になろう
 - ・谷戸田・桜ヶ丘公園での調査活動(チーム)4 回
 - ・炭焼き体験
- (3) SATOYAMA の未来を考えよう
 - ・総合発表会でこれまで学んだことを伝え合う
 - ・「未来の里山」について話し合う
 - ・1 年間の学びをレポートにまとめる

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・個別の調べ学習に留まらず、それぞれが関わりあって里山が成り立っていることを理解できた。
- ・自然環境、地域への愛着が高まった。

【課題】

- ・地域の雑木林ボランティアと共に、実際に行動する児童もいるが、まだ少ない。自分事としての意識をもう少し高める余地はある。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・イモリは田んぼの中にはいるはずだけれど、今回は見つからなかった。生き物を捕まえるためには、生息地をもっと調べてから調査に行きたい。【調査後】
- ・里山全体のつながりは考えたことがなかったけれど、この学習を通して、全てはつながっていることが分かった。【交流後の感想】



1 単元名(教科・領域)・学年

「稲作博士になろう」

(総合的な学習の時間)・第5 学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

■情報を取得し、活用する能力

■内省的な思考力

3 単元の目標

- (1) 米作りの体験活動や調べ学習を通して、米の消費量の減少と生活様式の変化とが密接な関わりがあることを理解する。
- (2) 米文化のよさを伝える内容や方法を協働的に考える。
- (3) 米のよさを身近な人に発信したり、自らの生活に生かしたりしようとする心情や態度を育てる。

4 単元計画の概要【全40時間】

- (1) 米文化を取り巻く様々なデータから問題を見だし、解決のために必要な情報を集め、分析し、米の価値を理解する。
- (2) 稲作の体験活動を通して、生産のために必要な知識の理解を深め、生産する側の苦労や労力を知り、米の価値を多方面から理解する。
- (3) 米文化を継承していくことの大切さを理解し、米の魅力を広げていくというテーマに基づき自分たちにできることを考え、まとめ、他学年に、発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・身近な米について考えることで、残さず食べようという意識や、自分たちの生活を見直すことへの意識が高まった。社会科との合科学習が図れた。

【課題】

・グループで考えをよりよい考えにしていく協働的な学びの時間を確保できたが、多様な他者と関わっていく態度の育成が必要である。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・米離れ問題を分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか話し合った。みんなで話し合うと色々な方法が出てきて計画がスムーズに行えた。
- ・自分で考えるだけでは思いつかなかったことが、友達と交流する中で気付くことができた。話し合うことは大切だと改めて思った。



多摩市立東寺方小学校

1 単元名(教科・領域)・学年

「お米とわたしたち」

(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する能力
- 持続可能な開発への価値観
- 結果をまとめる力、思いを発信する力
- 内省的な思考力、創造する力

3 単元の目標

- (1) 社会科の学習で学んだ農業を実際に体験することで、その苦労や喜びを肌で感じるとともに、「おいしいお米をつくるため」にどんなことができるか自分たちで調べたり対策を考えたりして実践していく。
- (2) 米作りを通して、学校の周りにある豊かな自然に目を向け自然を守りつなげていく意識を育てる。

4 単元計画の概要【全50時間】

- (1) 社会で学習した米作りの作業(田起こし、田植え)を実際に行うことで、「おいしいお米をつくりたい」という思いや自分たちの田んぼという愛着をもつ。
- (2) 美味しい米作りに必要な作業にはどんなものがあるのか調べ、課題をもたせた。社会科の学習をベースに、米作りの課題に対する対策を調べる。
- (3) 調べた内容を発表し合い、意見を交わす。
- (4) JAの方を招いて作業を教わり、収穫の喜びを味わわせる。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

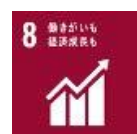
- ・田起こしの作業から自分で体験することで、米作りの大変さを知り、持続可能な農業について考えを深めることができた。

【課題】

- ・米の学習を終えた後も、食に関係するSDGsの学習につなげ、一年を通して一貫したテーマで学習を進めていくことが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・昔の人と同じように稲を手作業で刈ってみて、大変さがよく分かった。今は機械化しているから、楽になってよかった。
- ・実際にふるいをしてみると、軍手をしていても、もみ殻などが手に刺さって痛かった。農家の人は大変だなと思った。



1 単元名(教科・領域)・学年

「マイタウンプロジェクト

～自分たちで多摩市を盛り上げよう～

(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 主体的に活動に取り組む態度
- 目的を明確にし、協調・協働しながら行動する実践意欲と態度
- 情報を取得、活用してわかりやすく発表する力



3 単元の目標

- (1) 自分たちのまち(地域)を盛り上げるために、できる取組を考え、実践する。
- (2) 地域行事への参加や、地域の人々との交流から、地域の人とのつながりを大切にしようという思いをもつ。
- (3) 学校や地域を愛し、すすんで関わろうとする。



4 単元計画の概要【全30時間】

- (1) 多摩市について知る。
- (2) 課題から、それを解決するための方策を考える。
- (3) 地域行事(ハロウィンイベント)に参加する。
- (4) 実践から振り返り、更なる取組を考える。
- (5) 学習発表会で、取組の経過を発表する。
- (6) 振り返る。



(3)

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・多摩市の現状を把握し、それに対してどのようなことができるか自分たちで考え、行動できた。
- ・振り返りのサイクルを繰り返すことで、自ら学び、過去の経験を成長につなげることができた。

【課題】

- ・グループ活動を難しく感じる児童がいた。協働的に学ぶことの積み重ねを行う必要がある。



(4)

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・多摩市について調べたことで、自分が住んでいるまちの課題について分かった。ハロウィンイベントに出たことで、盛り上げていくという気持ちが強くなった。今後も、多摩市に住んでいる自分たちで南鶴牧小や多摩市を更に盛り上げていきたい。



(5)

1 単元名(教科・領域)・学年

「目指せ!米博士!」

(総合的な学習の時)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する能力
- 持続可能な開発への価値観
- 結果をまとめる力、思いを発信する力
- 内省的な思考力、創造する力

3 単元の目標

- (1)米について調べたり、米作りを体験したりすることを通して、日本の主食である米の価値に気付く。
- (2)米の生産、消費に関して自分たちができることを考え、実践しようとする態度を身に付ける。
- (3)米について教え、米作りに協力して下さった地域の方に感謝の気持ちをもつ。

4 単元計画の概要【全45時間】

- (1)日本や世界の米の歴史や現在の課題について調べたり地域の方から話を聞いたりした内容についてまとめ、発表をする。
- (2)地域の方の協力のもと、代かき、田植え、稲刈り、脱穀を行い米作りの体験をする。
- (3)稲の生長を観察する。
- (4)お世話になった地域の方に対してできることを考え実践する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・機械に頼らず、人の力だけで代かき、田植え、稲刈りを行うことで、米作りの大変さを経験することができた。

【課題】

- ・気候の影響により、稲の観察をしづらい時期があった。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・代かきで土を柔らかくできていないところは深く苗を植えることができなくて大変だった。
- ・今はほとんど機械化しているけれど、手作業でやるとこんなに大変だと実感した。コツをつかむとスムーズに稲刈りをすることができた。



1 単元名(教科・領域)・学年

「食と私たちの暮らしを考えよう」
(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 主体的に活動に取り組む態度
- 情報を収集し、発信する力

3 単元の目標

- ・日本の米事情について関心をもち、米の魅力や米に関する問題等について調べる。自分たちでできることを考え、実践できるようにする。

4 単元計画の概要【全20時間】

- (1)米に関する課題を設定し、調べる。
- (2)米作り農家や専門家の話を聞き、田植えや稲刈り、脱穀、米の食べ比べ等を体験する。
- (3)調べた情報を共有し、感想を伝え合うことで、米の魅力や諸問題について理解を深める。
- (4)食の安全性や大切さ、自分にできることを考え、グループでまとめる。
- (5)調べて分かったことを学級の仲間に発表し、考えを共有して自分たちでできることをまとめる。
- (6)調べたことを他校と共有し、考えを広げる。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・米作り体験や調べ学習を通して、身近な食に関心が高まり、自身の生活を見直すことができた。
- ・プレゼンテーションソフトを効果的に活用し、考えを発信する力が高まった。

【課題】

- ・今年度は、社会的な米不足や価格の高騰があり、児童の米に対する興味・関心が高かった。来年度以降も、児童が「調べたい」「どうして」と感じられるように導入の工夫が課題である。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・米作りは、想像以上に大変だった。食料を生産する苦労が分かったので、食べ残しを減らしたい。
- ・インターネットは情報が多く、必要なことをまとめるのに時間がかかった。次回は、本をもっと活用し、必要な情報をまとめたい。



1 単元名(教科・領域)・学年

「すわっ子市場を成功させよう」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を収集し、活用する力
- 持続可能な開発への価値観
- 思いを発信する力

3 単元の目標

- (1)地域や学校の抱えている課題に気づき、すすんで解決方法を考え、実践する。
- (2)自分の考えに自信をもち、進んで伝えたり、行動したりする。
- (3)地域を愛し、進んで関わろうとする。

4 単元計画の概要【全30時間】

- (1)すわっ子市場の概要を知り、全員共通の目的「地域の人を笑顔にする」を設定する。
- (2)総務部・販売部・宣伝部に分かれて、「地域の人を笑顔にする」ための課題に取り組む。
 - ①総務部…当日のスケジュール作り、場所の選定
野菜収穫量管理、価格調査など
 - ②販売部…店内レイアウト、販売方法工夫など
 - ③宣伝部…HPで発信、ティッシュ配り、動画作成
ポスター製作など
- (3)すわっ子市場での販売活動や販売促進活動、試食サービス、会計業務などで地域と関わる。
- (4)すわっ子市場を振り返り、さらに地域の人を笑顔にするための方法を考える。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・自分たちの力で地域の人を笑顔にすることができるといふ実感味わうことができた。
- ・目的を達成するために、様々な立場から自分たちができることを見つけて、すすんで発案してチャレンジすることができた。

【課題】

- ・当日行ったお客様アンケートから「野菜の配置」や「まとめ買いができるようにしてほしい」等の改善点を見付け出し、より多くの地域の方が笑顔になれるような第2回すわっ子市場を開催することが課題である。



児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・笑顔でお客さんに対応したり、試食をしていた方には自分から声を掛けたりして、地域の方が笑顔になって嬉しかった。宣伝部の活動でも、初めにカレンダーに書いた予定を見ながら作業を進めることができた。
- ・常に活動の進捗を意識しながら、次の集まりまでしておくことを整理するなど、先のことを考えて行動できるようになった。
- ・たくさん野菜を買ってもらい地域の人々を笑顔にできるように頑張った。

1 単元名(教科・領域)・学年

「大切な自然環境」

(総合的な学習の時間)・第6 学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 情報を収集・分析する力
- 他者と協力する態度

3 単元の目標

- (1) 身近な自然の存在とそのよさに気付くことができる。
- (2) 環境問題と自分たちの生活との関わりについて考えることができる。
- (3) 環境の保全やよりよい環境の創造のための取組について調べたり考えたりすることができる。

4 単元計画の概要【全45時間】

- (1) 自然や環境について思いを出し合う。
- (2) 調べたい自然環境を選び、問いを立てる。
- (3) 地球規模の環境問題にふれる。
- (4) 自分の生活と結び付けて実行可能な行動を考える。
- (5) グループごとのプロジェクト計画を立案する。
- (6) 自分にできることを宣言する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・「自然環境を守るとは、人間と自然の相互作用を理解し、持続可能な形で関わることだ」という概念的理解に近付くことができた。

【課題】

- ・児童が取り組むアクションプランを「一時的な解決策」にとどめず、自然環境に与える影響や持続可能性の視点で振り返る必要がある。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・自分の行動も一見小さなことに見えても、自然を守ることにつながるということが分かった。
- ・「ごみを拾う」だけでなく「ごみを出さない生活の工夫」が大事など、より根本的な課題解決を考えることが大事だと思った。



1 単元名(教科・領域)・学年

「食文化を知ろう!麦づくりを通して」
(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 主体的に活動に取り組む態度
- 情報を収集し活用する力

3 単元の目標

- (1)探究課題を明確にし、学習を通して得た知識・技能を活用しながら課題解決のために行動することができる。
- (2)学習を通して、収集した情報を整理・分析してまとめ、表現することができる。
- (3)未来の自然環境のために考えたり、社会参画に向けて行動したりすることができる。

4 単元計画の概要【全30時間】

- (1)麦づくりの目標を立て、探究活動に興味をもちゴールイメージや学習の見通しをもつ。
- (2)自分たちの課題を設定する。
- (3)体験活動などを通し、必要な情報を収集する。
- (4)収集した情報を取捨選択し、分析を行う。
- (5)自分たちの取組や学んだことについてまとめ、麦の発表会をする。
- (6)学習全体を振り返り、今後への意欲を高める。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

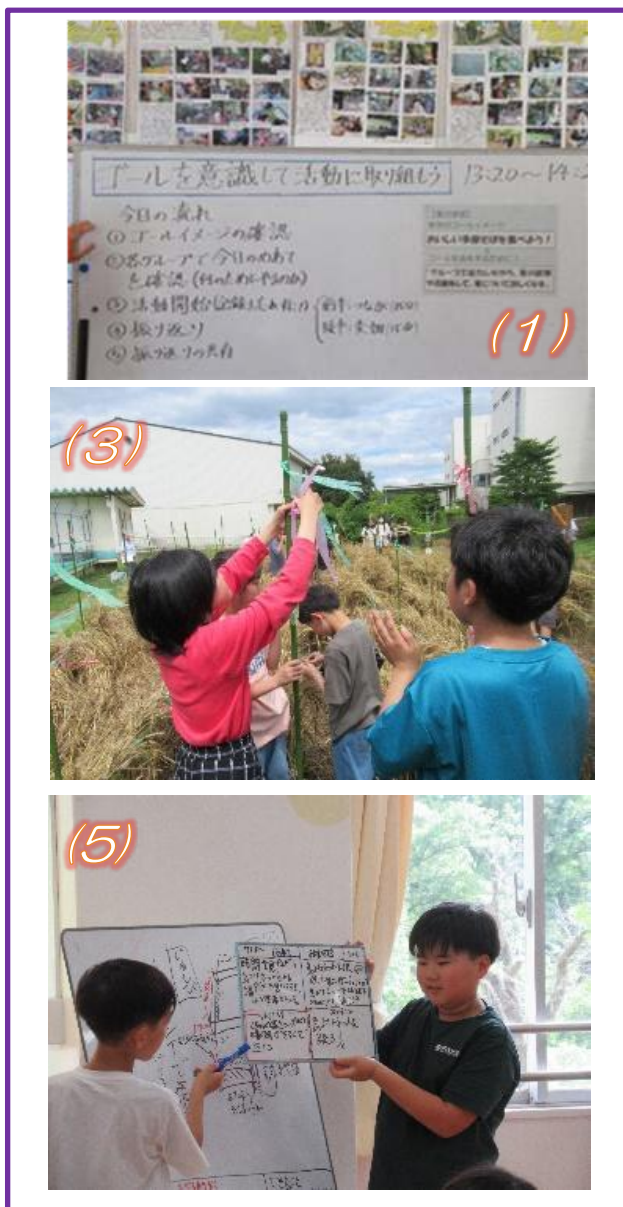
- ・児童主体で課題を立てることで、児童が自ら先を見通し、学習計画を立てることができた。
- ・振り返りの際に、自身の学習の現状と改善点を見いだせるよう投げかけたことで、次時の学びに向けて主体的に学ぶ意欲が高まった。

【課題】

- ・児童が学習過程の中でゴールイメージを意識化する手だてについて、さらに検討することが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・おいしい麦をつくるために、情報を収集・分析し、様々な対策を考えることが大切だと分かった。
- ・グループの仲間と協力して麦畑の環境を整備することができた。次は、麦の成長に大切な条件を調べ実行するために準備を進めたい。



1 単元名(教科・領域)・学年

「ライスプロジェクト」

(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 主体的に活動に取り組む態度
- 多角的・多面的に見る力、創造する力

3 単元の目標

- (1)米作りについて調べたり、実際に体験したりする活動を通して、米に関して理解を深める。
- (2)収穫した稲わらや米を使い、体験活動をしたり、食べたりすることで、伝統的な工芸や産地による違いを理解する。

4 単元計画の概要【全25時間】

- (1) 農家の方に、米作りの話を聞いたり、地域のゲストティーチャーや菜園サポーターの方に協力してもらったりしながら、代かきや田植えをする。
- (2) 地域のゲストティーチャーや菜園サポーターの方に協力してもらい、米の収穫や乾燥をする。
- (3) 乾燥後の米を脱穀したり、もみすり体験をしたりする。
- (4) 稲わらを使って、しめ縄作り体験を行う。収穫した米を市販の国産米と食べ比べ、地域や品種により、収穫できる米の違いについて発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・米作りを田起こしから手作業で行うことで米作りの大変さや米の大切さを理解することができた。
- ・地域の方との連携により、児童は米作りや地域の農家の方の仕事の様子や苦労について理解することができた。

【課題】

- ・教員だけでは授業をすることが難しく、ゲストティーチャーや菜園サポーターとの綿密な打ち合わせや時間の調整が必要なことが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・自分たちが作ったお米が、一番おいしいと感じた。
- ・米作りを自分で行ってみて、農家の方々の苦労が少しだけ理解できた。



1 単元名(教科・領域)・学年

「地域防災について自分たちにできることを考え、実践しよう」(総合的な学習の時間)・第2学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 災害時に自己決定し行動する力
- 地域や社会の活動に参加する力

3 単元の目標

- (1)災害発生時に正しく判断し、適切に行動するための資質・能力の向上を図る。
- (2)高齢者や障がい者など多様な人々の避難について自助・共助の視点から考え、安全に配慮しながら行動できる力を育む。
- (3)地域の方と協働・連携することにより、地域社会の一員としての自覚を高める。

4 単元計画の概要【全6時間】

- (1)地震発生時の初期行動について考える。
- (2)災害に備えた備蓄について確認する。
- (3)避難所生活や運営について学ぶ。
- (4)高齢者や支援等を必要とする方に話を聞く。
- (5)高齢者体験を通して高齢者への支援について理解する。
- (6)防災デイキャンプに取り組み、自助・共助について理解を深める。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・防災体験を通して、実際に地域の方と交流をする中で、多摩中学校周辺の防災に関する課題(高齢化、狭い道路、川に挟まれた地形)を把握し、地域防災において中学生として取るべき行動を体験し理解を深めることができた。

【課題】

・今回は主に大地震発生時の避難行動について学んだ。多摩中学校は多摩川、大栗川に挟まれているため、今後は風水害に関する避難行動についても学ぶ必要がある。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・実際に高齢者の方と話をし、想像もしていなかった不安や必要な支援を知った。
- ・多摩中学校周辺地域には、高齢者・障がい者・外国人の方が多く住んでいることを知り、インクルーシブ防災の理解が深まった。
- ・多摩中学校が避難所になったときに、自分たちがとるべき行動を理解することができた。



多摩市立東愛宕中学校

1 単元名(教科・領域)・学年

「多摩地域の魅力と課題を学ぶ」

(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■調べ学習や働く人との出会いを通して、多摩地域の魅力と課題を発見し、解決していく能力

■仲間と合意形成し協力、協働する態度

3 単元の目標

- (1)多摩地域の魅力や課題について自然、産業、文化財、防災などのテーマを通して理解を深める。
- (2)訪問先での取材、体験をまとめ、工夫して発表することを通して情報発信力や課題解決力を養う。
- (3)班活動や係活動を通して自主性を発揮して責任を果たし、協力する力を養う。

4 単元計画の概要【全25時間】

- (1)ガイダンスを行う。
- (2)テーマ、探究方針を決定する。
- (3)情報を集め、訪問先、コースを決定する。
- (4)校外学習で現地取材する。
- (5)情報を整理して新聞形式にまとめる。
- (6)新聞を基に学級内、学年で発表を行う。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

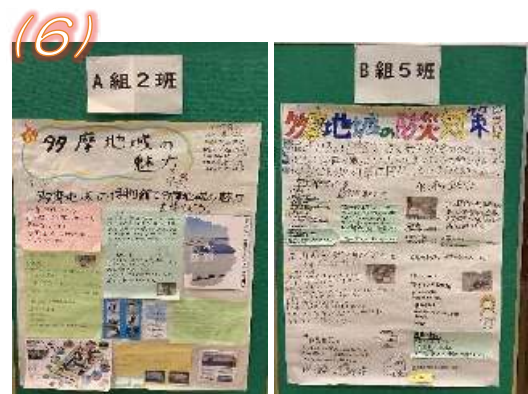
- ・自然、産業、文化財、スポーツ施設、防災対策などの視点で多摩地域の魅力や課題を捉え、理解を深めることができた。
- ・班で協力してテーマ、訪問先等を決定し、現地での体験をまとめ、工夫して発表することができた。

【課題】

- ・身近な地域、生活の中での気づきを今後の社会・理科などの教科、総合的な学習の時間にも結び付け、一層視野を広げていくことが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・障がいのある人について知り、スポーツは誰でも楽しめることを知った。
- ・南極・北極科学館で地球温暖化について深く考えた。
- ・立川防災館でのVR体験がリアルですごかった。家の家具を固定しようと思った。担架を作り、人を運んだ経験を実際の災害時にも生かしたい。
- ・多摩市が近隣の市と連携して防災対策に取り組んでいることが分かった。



1 単元名(教科・領域)・学年

「私が考える多摩市の現在と未来の多摩市」

(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自主的に活動に取り組む態度
- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 情報を習得し活用する能力

3 単元の目標

- (1) 多摩市の現状を調査し、魅力や課題を把握する。
- (2) 魅力ある多摩市を想像し、SDGsとの関連性を考え、探究していく。
- (3) 発表を通じて課題、提言を発信し、行動につなげる。

4 単元計画の概要【全18時間】

- (1) ESD教育やSDGsの概論について知る。
- (2) 個人レポートで多摩市の課題を捉える。
- (3) 多摩フィールドワークでの施設訪問による調査研究をする。
- (4) 調査研究をまとめる。
- (5) 発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・自分たちが生活する多摩市の現状を踏まえ、多摩市の取組を未来志向で捉えることができた。
- ・持続可能な社会を形成する一員としての姿勢を形成することができた。

【課題】

- ・多摩市を主体的に見つめ、課題設定することが難しかった。
- ・SDGsの視点をもって自分事として日常を振りかえることが難しく、時間確保に課題が残った。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・多摩市の解決に近付けるように自分たちでできる取組を意識したい。
- ・多摩市は市民を守るためにいろいろと努力している人がいて感謝しているし、私も同じ市民としてなるべく協力していきたい。
- ・公民館では差別がない「だれでも」がたくさんあった。
- ・そこに行かなければ知らなかったことも知ることができるとわかった。



1 単元名(教科・領域)・学年

「鎌倉校外学習を通じて、地域の魅力と課題を明らかにしよう」

(総合的な学習の時間)・第2学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 多様な文化を尊重できる資質や能力
- 課題設定の力、情報収集・活用力、思考力・表現力

3 単元の目標

・鎌倉の文化財、歴史、社会問題を知り、「持続可能な社会」づくりにおける課題を見だし、解決策を考える。

4 単元計画の概要【全18時間】

- (1) 多摩市と近隣都市を比較する。
- (2) 鎌倉校外学習の事前学習で新聞を作成する。
- (3) コース検討及び実地踏査のテーマを検討する。
- (4) 校外学習に参加する。
- (5) 事後学習のはがき新聞を作成する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・鎌倉における地域の魅力と課題について調べ、実地踏査を行うことを通じて、その地域がもつ特色を明らかにすることができた。

【課題】

- ・鎌倉の魅力と課題を踏まえて、改善策を具体的に考え、提案することが課題である。
- ・鎌倉の魅力と課題を踏まえて、多摩市に応用させながら考えられるようにすることが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・ただ歴史を「知る」だけでなく、「感じて考える」ことの大切さに気付きました。実際の出来事や人々の思いを想像しながらこれから学んでいきたい。
- ・小町通りの混雑から観光問題を、ごみが落ちていることから環境問題を考えることができた。まずは、個々で工夫をしていくことが大切だと思った。
- ・鎌倉では、歴史的建造物を大切にしながら、バリアフリーな設備を取り入れ、快適に観光できる場になっていることが分かった。



1 単元名(教科・領域)・学年

「多摩市を知り持続可能な多摩市について考えよう」
～防災・減災教育プログラム及び校外学習「多摩さんぽ」の実施を通して～(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■地域や社会の課題について関心を持ち、主体的・積極的に解決に向けて取り組もうとする態度や能力

3 単元の目標

- (1) 災害発生時に起きることを考える。
- (2) 災害発生時における自助・共助や実践的行動力を向上させる。
- (3) 地域についての理解を深め、地域社会の一員として主体的かつ積極的に行動しようとする態度を養う。

4 単元計画の概要【全12時間】

- (1) 災害時に命を守る行動について考えるとともに課題を設定する。
- (2) 防災デイキャンプを通して実践的行動力を高める。
- (3) 多摩市の地理や施設を調べ、班ごとに作成した行動計画に沿って、多摩市内を散策し、施設見学を行う。
- (4) 持続可能な多摩市について自らができることを考えたりまとめたりして、発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・多摩市のよさや課題について、様々な角度から理解を深めることができた。また、地域の課題を自分事として捉え、くらしを守るために自助・共助が必要であることを理解することができた。

【課題】

・未来の地域社会を担う人材として積極的に行動したり、考えたことを実践に移したりする姿勢を身に付けることが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・防災デイキャンプを通して自助・共助などを意識したいと思った。
- ・いつ災害が起こるか分からないので、日頃からシミュレーションをしておくことが大切だと思った。
- ・「多摩さんぽ」で多摩清掃工場に行き、毎日のゴミの量に驚いた。ゴミを燃やした時の熱で発電するなど、持続可能な社会の必要性を知ることができた。

防災デイキャンプ



(1)



(3)



(4)

1 単元名(教科・領域)・学年

「SDGs に視点を置いた多摩市の商品の開発」
(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 情報収集能力・活用能力
- 思考力・表現力
- プレゼンテーション力

3 単元の目標

- (1) 10年後や20年後の多摩市を想像し、持続可能な社会づくりに貢献しようとする力を育てる。
- (2) 協働して課題に取り組み、困難に立ち向かう精神を育てる。
- (3) プレゼンテーション(発表活動)を通して、分かりやすく伝える技能を身に付ける。

4 単元計画の概要【全12時間】

- (1) ガイダンスを行う。
- (2) 企業について学ぶ。
- (3) 商品の製作と市場調査について考える。
- (4) 商品の宣伝と販売方法について考える。
- (5) 仮想の企業を立ち上げ、販売の体験を行う。
- (6) 決算と活動の振り返りをする。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・2050年の社会を自らの力で切り拓き、社会と連携しながら活躍する生徒を目指すことを目的として、SDGsと多摩市をモチーフにした商品の開発を行ったことで、身近にある課題について自ら考えることができた。

【課題】

- ・消費者(買い手)が何を求めているか分析が不十分で、赤字となったグループが多かった。
- ・社会や家庭科の授業も併せて、消費者(買い手)の考えを知る機会を増やしていきたい。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・多摩市の課題を考える中で、自分が地域社会の一員であるということに気付いた。地域のために自分に何ができるか、これからも考えていきたい。
- ・自身の考えが認められ、商品に反映されていくことがとても嬉しかった。



(6)

「多摩市子どもみらい会議」の メッセージを踏まえた取組

令和6年度「多摩市子どもみらい会議」（令和7年1月24日開催）において、多摩中学校区、聖ヶ丘中学校区、鶴牧中学校区の児童・生徒が、「2050年の多摩市のために私たちにできること」をテーマに話し合い、「多摩市市民一人一人がまちづくりに参加しているという意識をもって行動に移そう。」という一つの提言をまとめました。

このメッセージや各校の提案を踏まえ、地域社会の一員として、まちづくりに参画するため、何をすべきか考え、令和7年度に取り組んできたことについて紹介します。

多摩第一小学校 第6学年 環境に優しい発電について学ぶ 自分たちの力で発電に挑戦する



「環境にやさしい発電について、より多くの人に関心をもってもらいたい。」そんな願いをもち、自分たちの力で発電に挑戦しました。地域の方のご指導を得ながら、いろいろな発電方法に挑戦しました。

多摩第二小学校 第3学年 楽しく自然と触れ合う 大栗川にて「ガサガサ体験」を行う



自然の仕組み、大切さ、さらに身近な生き物の息吹を諸感覚で感じながら、自然の素晴らしさを体験しました。多摩市水辺の楽校の方々のご指導のもと、安全に気を付けながら、生き物と触れ合うことができました。

多摩第三小学校 第4学年 身近な環境問題に目を向ける 自分たちにできることを考え行動する



乞田川をよく知るために、多摩市水辺の楽校の方にご協力いただき、乞田川の調査をしました。そこから発見した水辺の動植物や、川周辺の環境問題などについて調べ、自分たちにできることを考えました。

連光寺小学校 第2学年 連光寺をもっとよりよい地域に



連光寺地域には、どんな場所があるのか、どんな人が働いているのか、どんな工夫があるのかなどの視点をもって、「まち探検」を行いました。気付きの共有の中から、地域のよさについて気が付くことができました。

北諏訪小学校 第5学年
共生の在り方について考える
多摩桜の丘学園との交流



多摩桜の丘学園との交流を通して、「だれもがくらしやすいまちづくり」について考えました。障害の有無に関わらず、多様な人々が安心して幸せに暮らすには、相手への理解と思いやりが大切であると気付きました。

南鶴牧小学校 第4学年
身近な環境について考える
芝生管理作業を体験すること



校庭の芝生は、保護者や地域の方々の協力によって手入れがされています。4年生はその活動の一環として芝刈り体験をしました。自分たちが使う場所を大切にすることや、自然と触れ合う喜びを学ぶ機会となりました。

西落合小学校 全学年
身近なノートのリサイクルを通して
環境問題に取り組む



ゲストティーチャーを招いて、環境問題について学びました。一度使った紙を集めて、もう一度、紙にすることができることを知り、代表委員会を中心に、使い終わったノートを集める活動を行いました。

東寺方小学校 第6学年
省エネの大切さを知る
自分達の手で発電に挑戦する



知りました。そこで、地球環境にやさしい発電方法について調べ、グループごとに発電装置を作って、発電することに挑戦しました。

聖ヶ丘小学校 第6学年
地域のことを見直す
地域に自分たちの思いを届ける



「自分たちの育った地域のためにできることをしたい。」そんな思いをもち、ブラスバンドの発表を様々なイベントで行いました。先輩たちから引き継いだ思いも胸に堂々と発表を行いました。

大松台小学校 第3学年
多摩市の取組について学ぶ
郷土のよさを伝え合うことに挑戦する



「自分たちの住む多摩市の魅力を調べ、よりよい未来について考えたい。」そんな願いをもち、探究的な活動に挑戦しました。多摩市の様々な取組を調べ、伝え合い、よりよい未来について考えることに挑戦しました。

諏訪小学校 第3学年

くらしやすいまち
自分たちにできること



「障がい者とともにひとときの和」の方々から体の不自由な方のお話を聞いたり、体験したりしました。体が不自由な人にとって過ごしやすいまちは誰にでも便利なまちであることに気付き、自分たちができることを考えていました。

永山小学校 第5学年

「服のチカラプロジェクト」を通して、環境や再利用について考え、自分ができることを実践する



SDGs の意味について知り、衣料回収活動が難民保護につながることに気がきました。共に生きるために自分たちにできることを考え、校内・地域への協力の呼びかけを行いました。

瓜生小学校 第5学年

環境問題から食料生産について考え、食品ロス対策に取り組む



総合的な学習の時間において、食料生産をきっかけに環境問題について考えました。食品ロス対策として、自分たちで食べる以外の方法について調査し、それぞれのチームで探究しました。

東落合小学校 第6学年

ゴミ出し活動
地域の方との交流と助け合い活動



「地域の方と仲良くなった!」東落合小学校の伝統である地域のゴミ出しボランティア活動。地域の方との関わりから、あいさつの大切さや助け合いの精神、地域のよさを再確認し、地域の一員としての自覚が高まりました。

貝取小学校 第5学年

障がいのある人の思いや願いを理解する
自分にはできないか考え実践する



福祉体験を通して「お互いを思いやるまちなるために自分にはできないことはなんだろう。」そんな問いをもち考えを深めました。課題を見だし、友達と協力し合いながら地域社会に広く目を向けて、実践しました。

豊ヶ丘小学校 第6学年

学校林を題材に環境問題について学ぶ
学校林の課題を解決する方法を調べる



「学校林を守り、未来に残していきたい。」そんな願いをもって学習に取り組みました。国土交通省の方など、外部講師の方を招き、自分たちが立てた課題を解決しようと、様々な情報を基に調査・分析し、活動しました。

豊ヶ丘小学校 第6学年

学校林を題材に環境問題について学ぶ
学校林の課題を解決する方法を調べる



地域のゲストティーチャーに、命の循環の指導を得ながら活動をしました。落ち葉等でコンポスト作りに挑戦し、できあがったたい肥を実際に自分たちが育てる野菜の畑に活用しました。

多摩中学校 全学年

大栗川的环境について学ぶ
地域の方々と交流し清掃活動を行う



地域の方々と清掃活動を行いながら、大栗川は乞田川と違い、川底がコンクリートではなく自然の砂や砂利で形成されていることを学び、大栗川の生物の多様性と環境保護について理解を深めることができました。

東愛宕中学校 第3学年

修学旅行で「現代の課題・未来に残したい暮らし・文化・伝統」を探究学習する



第1・2学年で積み重ねてきた地域理解学習を踏まえて、修学旅行の事前・事後学習を行い、現地で見学や工芸体験を通して持続可能な社会を創るための暮らし・文化・伝統の継続・発展について学びました。

和田中学校 第2学年

よりよい資源の活用方法を考える
中学生の今できるアクションを考える



国語の時間において学習した「モアイは語る～地球の未来～」における筆者の意見を参考に、有限な資源をどう効率良く利用していくべきかを考え、中学生の今だからできる行動を発表しました。

諏訪中学校 全学年

地域の一員として主体的に活動する
地域の未来像を想像し活動する



生徒会主催のスマイルプロジェクトの一環として、自分たちができることに主体的に取り組み、「つながり」の重要性を実感しました。戦後80年平和を願う折り鶴プロジェクト、地域清掃を通じて地域社会の一員である姿勢を育みました。

聖ヶ丘中学校 第3学年

よりよいまちづくりについて考える
多摩市が重点的に取り組むべき課題とその改善策を提案する



多摩市が抱える課題について、資料を根拠に検討を行いました。その上で、交通網の整備、少子高齢化、スポーツ施設の充実、企業との連携・経済の活性化など、様々な視点から、改善策をプレゼンテーションの形で提案しました。

鶴牧中学校 第1学年

地域の課題を知り、改善策を考える
テーマを意識した市内探究活動を行う



SDGs11「住み続けられるまちづくりを」を意識し、班ごとに設定した課題について多摩市内を巡って探究活動を行いました。また、活動を通してわかったことや考えたことなどを班ごとにまとめ、発表を行い、成果を発信しました。

多摩永山中学校 全学年

委員会活動とSDGsのつながりを考える
主体的に行動し、責任ある行動をとる



学年を超えて活動し、普段の委員会活動がSDGsにつながっていることを学びました。地域にも協力を依頼するなど、活動に広がりがあり、目的意識をもった活動が行えるようになりました。

落合中学校 第1学年

リサイクルと難民支援について考える
着なくなった服を難民のもとへ届ける



総合的な学習の時間において、「服のカププロジェクト」として、服に関するつくる責任、つかう責任について理解し、自分たちにできることは何か考え、実際に行動することができました。

青陵中学校 第3学年

京都府のSDGsの取組を学ぶ
事業者による環境先進地の事業について学ぶ



修学旅行で訪れた京都で「生物との共生」の視点を基に、「SDGsの取組」と多摩市が直面している課題を解決するために、中学生ができることについて考えを深めました。

2025. 11. 10(月)15:15～@多摩市立教育センター202研修室

多摩市 ESD コンソーシアム連絡会2025(報告)

ESDの更なる充実に向けて ～『2050年の大人づくり』に向けたセカンドステージとして～

ESD では、「持続可能な社会の創り手」の育成に向けて、子どもたちの学びを支えるための大人同士のつながりが不可欠です。市や学校の取組について共有し、継続した支援をお願いすること、また、参加者同士がつながり、関わり合っ て連携していくことを目的に、多摩市教育委員会では毎年、「ESD コンソーシアム連絡会」を開催しています。今年度も、ESD を通じた学びを支えてくださる多くの関連団体、企業、大学、都立学校等の皆様にご参加いただき、ESD コンソーシアム連絡会 2025を開催しました。

【参加団体・企業・大学等】(敬称略)

- ・株式会社 長谷エコーポレーションミュージアム
- ・東京ガスネットワーク株式会社
- ・JUKI 株式会社
- ・都立多摩桜の丘学園
- ・多摩市水辺の楽校運営協議会
- ・グリーンライブセンター
- ・楽農倶楽部
- ・くらしと文化部 平和・人権課
- ・企画政策部 企画課 健幸まちづくり担当
- ・子ども青少年部 子ども・若者政策課

計 15名が参加



ESDの充実・発展に向けて(懇談)

連絡会の前半では、各学校のESDの取組について、多摩市ESD推進アドバイザーから説明をさせていただくとともに、ご参加された団体・企業・大学等による各学校への支援の内容について共有する時間を設けました。

後半では、「学校におけるESDの充実・発展にそれぞれの立場から支援できること」をテーマに、グループに分かれて参加者同士で話し合いました。都立高校、近隣大学、市長部局からなるグループでは、「子どもたちにとって、体験に勝る経験はないのだから、それぞれのもっている強みを生かして、子どもたちと地域をうまくマッチングできるように連携していくことが大切である」との意見が出されました。

2050年の多摩市のために私たちにできること ～SDGsの達成に向けて何をすべきか～

令和7年度多摩市子どもみらい会議 趣旨

令和7年度ESD推進校のESDの実践発表の場でもある「令和7年度多摩市子どもみらい会議」では、「2050年の多摩市のために私たちにできること～SDGsの達成に向けて何をすべきか～」をテーマに協議を行いました。地域社会の一員として意見を表明しまちづくりに参画するため、参加した代表児童・生徒がESDの取組から学んだことを基にして、多摩市役所職員と共に今からできることを考え、提案とメッセージを発信しました。

第1部 各学校のESDの取組発表

中学校区の中で各学校の特色ある取組や学習の成果を発表しました。

【発表内容・テーマ】

和田中学校	SDGs 調べ学習より(新聞ゴミ箱の作成、点字について、雑巾プロジェクト)
多摩第二小学校	防災「地震から身を守ろう」校内での避難
多摩永山中学校	委員会活動より(書き損じはがきプロジェクト、里山プロジェクト、エコプロダクツ)
永山小学校	みんなで生きる街～永山の未来～(車椅子体験、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がいについて)
瓜生小学校	サイエネデ ミライユスクエ 再生可能エネルギーについて
落合中学校	住み続けられる街づくりを 1.治安 2.防災 3.魅力 について
西落合小学校	みんなが使える公共施設 お弁当屋さんと運動施設の複合施設の設立について
東落合小学校	多摩市の未来のスポーツについて

第2部 中学校区での協議・意見交換・提案の検討

「2050年の多摩市のために私たちにできること～SDGsの達成に向けて何をすべきか～」をテーマに、学校ごとにESDの取組から気付いた課題を踏まえた多摩市への提案を行い、多摩市役所職員から情報をもらいながら、中学校区の児童・生徒が共に検討して具体的な提案を考えました。

【各学校の提案】

■和田中学校区

和田中学校	<input type="checkbox"/> 街をきれいにするために、ゴミの分別について多摩市のSNSを活用した意識啓発!	【中学校区の提案】 ESD【環境と福祉】を通して人とつながる街
多摩第二小学校	<input type="checkbox"/> 防災の街を目指して、安全・安心な避難のために、近所の人たちの不自由をアンケートで把握し、意識を啓発する。	
【参加した多摩市役所職員の所属課】 環境政策課・資源循環推進課・防災安全課		

■多摩永山中学校区

多摩永山中学校	<input type="checkbox"/> 中高生による多摩市PRコンテストを実施し、若い世代に多摩市をPR!「個性と平等を大切に作る多摩市」「高齢者に優しい街」をSNSで発信!	【中学校区の提案】 すべての人にやさしい街 すべての人と未来にやさしい街 今、環境と福祉を大切に して未来を守る
永山小学校	<input type="checkbox"/> 当事者の視点に立ち、思いやりある行動を地域に広げることが大切。お互いを尊重し、誰もが住みやすい街づくりをしよう。	
瓜生小学校	<input type="checkbox"/> STOP!地球温暖化!再生可能エネルギーによる電力の地産地消や各学校の窓に遮熱・断熱シートを貼ることで、環境に優しい未来を。	
【参加した多摩市役所職員の所属課】 ・秘書広報課・高齢支援課・障害福祉課・子ども・若者政策課・環境政策課		

■落合中学校区

落合中学校	<input type="checkbox"/> 多摩市のことや防災について、自分たちが知らないことを学び、SNSを活用して、多摩市の魅力や防災情報を発信し、安全安心な住み続けられる街にしていく。	【中学校区の提案】 総合体育館や新しい公共施設を利用して、スポーツや防災に関する意識、取組を活性化させていく クラウドファンディングや募金で資金を集め、SNS、広報誌、多摩テレビによるスポーツ配信を行う 地域をみんなできれいにし学校で清掃活動、地域の方にボランティアを呼びかける
西落合小学校	<input type="checkbox"/> 総合体育館や新しい公共施設を利用して、スポーツや防災に関する意識、取組を活性化させていく。	
東落合小学校	<input type="checkbox"/> クラウドファンディングや募金で資金を集め、SNS、広報誌、多摩テレビによるスポーツ配信を行う。	
【参加した多摩市役所職員の所属課】 ・行政管理課・秘書広報課・防災安全課・スポーツ振興課		

第3部 全体での提案の共有及びメッセージ作成の協議

小・中学校9校の代表児童・生徒同士が各中学校区の取組や提案を共有した上で、自分たちを含めた多摩市全体での持続可能な街づくりに向けて発信するメッセージを全員で作成しました。

【提言】

今を大切にして 全員が自分らしく 生きられる環境を作ろう

第4部 市政への提案、メッセージの発信とオブザーバーからの意見

本会議のオブザーバーである多摩市須田 雄次郎副市長から各学校で出された提案については市に持ち帰り、検討するというお話がありました。そして検討した結果は、回答集にまとめて各学校をとおして回答していくというお話をいただきました。

講師:アナウンサー 気象予報士・防災士 大河内 孝子氏から

各学校が考えた提案の共通点や相違点から、提案をまとめることの難しさや、仮説を立てて実証するという経験を積むことの大切さについてお話をいただき、児童・生徒の取組を価値付けていただきました。

児童・生徒からの提案については、令和8年9月頃を目途に多摩市としての対応や考えを市の公式ホームページを通じて回答する予定です。



子どもが創る 多摩市のみらい
Education for Sustainable Development 実践事例集

令和8(2026)年3月発行

発行 多摩市子ども青少年部子ども・若者政策課

〒206-8666 東京都多摩市関戸6丁目12番地1

TEL 042(375)8111(代表)

編集 多摩市教育委員会教育指導課

印刷物番号

7-57



子どもが創る 多摩市の未来
 Education for Sustainable
 Development 実践事例集

Vol.1 1

多摩市立小・中学校は、全ての学校がユネスコスクールに登録しています。